

和書門
 四三〇九一號
 一三六函
 二册架類

內閣文庫
 和書
 四三〇九一號
 二册架類
 九五函

內閣文庫	
番號	和 43091
冊數	2 (1)
函號	195 56



白席十一或同抄

子交八口法乾

5

賀茂業 天明天皇法成和州元年

放生寺 長生元年

右名遊業 文海所時仁孝元年

御園寺 嘉永元年

平井業 長山院定和元年

嵯峨寺 長生元年

寺名簿

建寧 秩官醫提領陳志川

南里川 醫者相授危西村編集

醫者字正傳 下名付ル一序内ニテ決リ

又ハ其 務リ言

醫者字正傳 醫者字正傳

此ノ書ニ 存シタルカ醫者ノ遺也業長七ハ可

也業長七ハ可 業長七ハ可

醫者字正傳 業長七ハ可

民ノ字ヲ人ト見ヨ貴賤上下ヤレ

藉ノ字ヲヨツテヨニ或ノ字ヲ有トヨハ業長七

格物致知ノ學問ヲ不爲ヨ不難徳術也

東方斗ツク是、小學ニテ、儒ハツスルツカシテ
業擅編門、伝フ編門トハカタクチタレ、右
ノトク、小學ニテカタクチタレ、右ニテ
凡故博、下ニ知、明ニテ、學漸ク、務、藝
此ツク、スル、正道ヲ不知、一編、心、均、テ
素ノ語ニテ、人ツ、殺ス、ハ、カツ、以、テ、人ツ、殺ス、ト、同、丁
ニテ、ハ、チ、カ、ト、云、フ、シ、不、及、幾、於、操、又、以、殺、又
身、伝、操、又、殺、人、孟、子、ニ、アリ

● 神農嘗百草、制、本草、軒、政、平、素、問、答、ニ、テ

著素問、經、人、難、經、ツ、作、セ、ル、丁、抄、評、也、諸、令、知、レ、事、也

● 帝ハ軒政、經、人、ツ、サ、ス

● 堯明トハ、東、人、ノ、不、堯、丁、ツ、堯、シ、明、ス、ツ、云

● 天地人、力、一、地、本、火、水、五、行、有、レ、ハ

人為、肝、心、脾、胃、ノ、五、行、有、天、風、寒、暑

濕燥、火、ノ、六、氣、有、レ、人、力、膽、少、膽、胃、火

腸、膽、脾、之、焦、ノ、六、府、アリ、然、レ、ハ、人、力、水、地、伝
テ、天、地、人、力、一、致、レ、ル、也

素問ハ六運大昌不及依テ人カノ病ナ
ク云亦難經ニ東方寅西方酉辰辰辰辰辰
陽六行ノ理ヲ究明シテ也

○卑ハ高クモテ凡ク云

○素難ハ理ノ至極シテ凡クハ百ノ世ニテ醫ノ

家ノ元祖トナリテ加エ云フナリ中中中中中不可

○尚己法口不可尚己法ナリ子孫承公トナリ

○厥後名醫亦代リ軒岐部人ヨリ法名高ナリ

醫者カワルルナリ軒岐ノ跡ヲフミテ云

微ト微ルナリ所ニ至リ先ニ多クシテ急アケカク
中ト也

○又著漢張仲景唐孫思邈金ノ

○此女子ノ傳記ハ所傳原ホ有甚ト抄評也

○諸賢絶作洛有著作ニ右女子ノ元ハ聖人ノ

○次ノ賢人ノ位ニ至メ云ナリ故ニ諸賢后何モ書

○シ著シテ凡クシテ洛有著作也

○神巧ハ四知ツ畧シテ神巧ト書也

○運用トハメクラシ月后ヲ療治シ事ヤクカ四知

ヲ知得テモ用ニ立子ハナラヌ又ノ右夫人ハ知ラハタ
ラカニ用ルル人ノ非所及也

其所以辨内外畧攻補而互相究明者一

仲景内傷ヲ非不知其内外感得也也

外感非不知其内傷補劑得也河間張

子和補劑非不知其内攻劑得也如此類

堯明之先之者皆兼得之祖述ニテ引伸

觸數ニタ也

祖述 中庸朱子終遠宗其道也

本付在ナヤ

引伸觸數下 易繫辭十有八爻而成卦

八卦而小成引而伸之觸數而長之天下始

事畢迄之 在在朱子云是言得言一卦則

乾上包推看如乾則推其為國為君為

父之數是也迄之メ下ヲカハ時十八爻ニテ

一卦也非スル其卦付テ乾上ハ何ノ坤上ハ

ハ何ノト推テ知ル引伸觸數長之也

右夫人云素難ニ針ノ補厚ヲ云テ有ルヲ見

テ葉方ノ補得ヲ得し或方地ノクク云テ
有ツ見テハ人カ務府ノクク得之系雜經
右腎命門居本付テ付葉ハ味ヲ割之
毒問胃ハ味ヲ去府之海法本付テ東地
補中益氣湯ヲ割之至真要方論病機氣
宜十九條ヲ見テ諸病皆撰ヨリシムル下ツ
究明シテ河間陽風重聖散ヲ割シ亦本論
ハ音^ハトク大論ハ音^ハトク出論ハ音^ハトク金論ハ^ハトク
之水論ハ折之此ハ格ヲ張子和究明シテ
汗吐下之之法ヲ立其務以之タレ歎治祀
本引仲錫歎后也

● 授ハ師ヨリ弟子ニサウケ受ハ弟子師ヨリウケ
ク云學術ヲ務カ高思カクハ云テ有夕
故集自正學之申事法

● 吾道丹溪朱希見也
● 吾ハ親ハ言ハク天臣ト是テ有夕故吾道ノ法
● 醫心丹溪カ弟也了抄評也

● 考亭 弟ニ學問所也

● 歸緒 莊子素道之真以故力其緒歸以
為國家其土直以以天下註 歸歸土直
四字只就歸事上言亦似云塵垢糠粃
トアリ終ハ緒歸ハ中ハ也今天民丹溪
ノ下ヲ脱カラ早下シテ考亭ノ中ハシテ得
又ト云モ不入下也其と歸緒ト上下ニ在
不審也惟後ハ丹溪石考亭ノ中ニリテ得
之ヲト廣ク見テ知ヤリ也
● 復自母病刻志於醫也 丹溪云此ノ時

● 母病色ニシテ諸醫為救病凡時醫ニムカシテ
素問ツカテニ云平治六之矣シテ後母ノ病ヲ
愈シテ後下格致ノ序アリ醫道ニ其ノ人志ヲ
勞シタル下ツ刻志於醫也云云
● 羅知悌字ハ子敬古林人稱大無也生得
刑究素く母傳為膏通張從正本草二
家ノ說本於素難丹溪之生得學其大
術ト有アリ終ハ格致ノ學ヲ究ルハ
素問ツヨクニ悉矣之其と羅知悌ノ中ニテ條

流下ク字海に又シク凡丹溪在故学源
妻ト本末有テ精流也精微ト好下至丹
元ト也口源妻礼記源泉所出也妻流所
飛セトアリ本末ノ少

口所著格致論百有餘等亭治所以
折衷前哲を是以救漏門之弊

折衷精註アリ 浩正音 折以也衰中
也 取言附坤后物ハ丹溪ト云合
吟味ニ始テシクニ云リ也

温規相史ノ病ヲヌテ多クテ示有テ丹削温
素ヲ多ク用ルテソニ臨牀應多ク云
又ホトニ医学ノ醫者ノ業ヲシテ是ヲ精流スル
ツイエツスクツニ先リト也

偉然百世ノ宗師也 聖人ハ百世ノ
師也伯夷柳下惠是セトアルコトク丹溪ノ云
方理ノ至極ナルハ偉然ト大キニ百世ノ師ト云
師トナル所也

口東陽盧和武靴集丹溪書為筆書者ト

源流。モ盧抄式部集丹波之書為實業書
トアリ中凡門傳宅門ト凱集シタリ

○かたはる舒カレハ野鳥道ニカクモ舒カレ傳リト

カクシトト盧和カ集タムハ亦勸メ者セ伝リ

○**信長**云舒カレハ海島カクモ亦内懐トアリ亦

亦更ニ用ム亦勸メリトアリ其ムク用テ不臣

モ書タリ

○以遇能クモ不臣丹波ノ

算書書シ不臣トクト凡ルニ丹波カ録リツク又

ニ不足ヤ何トシタリツキハ丹波ハ前人ノ云タリ

ツハモウヤ不臣前人ノ備タリツキモウヤ不臣

諸賢ノ云合ツ合ニテニスルアラズバ野鳥ノ大

成ニテハアルニイトヤ

○此支那シハテ不臣ノ人申シ推量スルニ盧和

カニク丹波ノ心サエ不臣ノ書ト諸賢ノ説ツ

○モ不臣ノ人皆實業書ト思フカワレテハ十人

イフモ亦丹波ノ地河名ホノ諸賢ノ説ツ

打合セテコソ本座ナシト思ヒ叙テ此正傳ツ作ル

此正傳コヲ讀覺ノ説フモ参考在ニクホト驚
ノ大成ナシトノ文神也

○愚承祀文ノ字學私淑丹陰ノ遺凡

天運祀文家學ノ事ニ或問アリ

孟子云吊束縛為孔子後也吊私淑諸人

事孔子直傳ハナラス且忠ノ門人ニ道ヲ受テ其

力ヲ能傳西ヲ也此文法習テ書タツ

不遠モ丹陰直傳ハナラス其貴凡シ砂テ

ニ失シテ驚道有得ニク厚也

○其於素難靡不若志鑽研

素難ヲニ失シテハ志ヲ學シ先居テ少若志

鑽研居ナリニガキ切磁琢靡不若也

○於義難理之微若坐豐之部

言ハ結構花家ナ部シ大ニ打ハ、イテクラキ

ノ也表ノクラキ所長テ日中ニ見シク極也

畢竟素難ノ其理ニ微ト深ク遠クシテム

難シト也素難自畫ノ如七段見ノ所見凡

心豊卦九四曲豊其部日中見ノ過其

庚至者 後漢書八九四位の紀中所謂アタリしに
陰暗者弱く至相テ漸く其部ヲ大ニ死セ
部ヲ大ニメシ、イフ、フ時不明也日中見ルハ少
透明時子テ昏暗也

日 追遠歴回紀千茲始一紀十二年也指ハ回
紀ハ中八年也言ハ天民素雅ヲ遠歴トテ
ケニシフ、丁字八年程ニテ漸ク此回始テ
蹊トアトヤ、徑トコニ中ヲ少テ知ル也、識字
者ノ心ヲ可付ル也、素雅、雅、此ハ在ホト、有

得也子ハ遠ク先註モナシ、亦、務、法、也、在ホト、ハ
大、孔ノエ、又、テ、ハ、及、カ、争、リ

天運之年 謝玄暉詩、桃李成蹊、徑ノ字アリ
今年七旬有八、有ハ文法也

日 蔡榆景通、一、淮南子云、日、在、西、影、在、木、端、
日影在木末、不久、後、如、人、年、老、不、久、死、也

日 蔡榆、八、短、木、也、此、木、日、落、テ、ハ、程、十、ク、是、シ、ム
天、民、七、十、有、八、以、シ、テ、云、ク、精、力、日、衰、ル、也、也、

日 每、憾、世、變、多、踏、漏、門、而、民、有、下、大、死、驚、

不学ノ俗習也。其業ヲシテ、ハワリ、夫ト表死スル者
ノ多キヲウラミ思フヤ、夫ハ経折ト註アリ

口是以有精荒拙
万民大死スルヲウラミ思フ故ニ、天民中セ、知テ荒
拙トシツタチキ、一ツ中エリ、有ル人、ハツ強ク付テ
此正傳ヲ作スル、信一ツ、銳意編集、厚也、銳
和訓、スレト、亦トシトモ、アルホト、ハツ強クウケル也

口綱鑑

一、各振板、中素雅、経横、中諸説、傳通

己意、而不、鑿、金、以、是、浪、之、空、言

口綱鑑、紀、要、平、長、正、之、学、振、板、去、経、后、字、アリ
振板ハ、根本トシテ、ヨリ、ヨルノ、由、也、経、横、ハ、考、テ、ヨ、コ、也
於、ハ、素、雅、ツ、タ、テ、之、諸、説、ツ、ヨ、コ、シ、テ、此、正、傳、ツ
シリ、タ、テ、タ、ル、也

口孟浪、輕、率、也、ト、アリ、カ、ル、ハ、考、ソ、ソ、ウ、タ、リ

口空言、史記、素、雅、隱、空、言、ハ、謂、虚、妄、也、是、ハ
非、ト、アリ、於、ハ、今、天、民、中、死、ス、ル、輕、率、ト、カ、ル、ハ
亦、虚、妄、歟、ス、ル、言、ツ、以、テ、ス、ル、テ、ハ、十、之、素、雅、雅、諸

説ッ根本トシテ...
ツ云ト也亦宜言ッ字ノ...
ラハ是流ト解シ云者...

○物而不離乎正学範圍之中
全部入卷ハ物ヲ軒岐正学ノ範圍トイカクカコ
ミノ中ハ不離ノ事人ノ附者ト云理付ケ在
セテ人ツアヤニハ正学ノ法則ツ不離ホト後
世ニテモ正学ヲ醫學シテ流レ居ルニ醫學正学正傳
ト名付ル也

○範圍 易經中詩ニアリ抄ニ詳也

○將使後学知所適從

○素難諸賢ノ説ニ天遠カク加テ再傳ツ作

○通從ノ名学者者素難再傳ニ適從ニテ不殺

○人知下ノメ也

○適從ノ二字在傳アリ和訓アルトシニ各ウツ

○蓋一語本澄源

○本ノ書也トアリ本モ本直シハ末直シ水天

○深淵ハ流ニ深ムニ醫學ハ素難ヲ根本トシ

ヲ知ト也

●高明士 書經註 高明ハ有位ニ尊ヲ顯也
●士 漢書 以學入仕ヲ士也 又 才氣 凡ハ才氣

侍臣ナリ
天民カハハ居世ニテ 賢者ノ久ク不殺様ト
思フホト 法ソシリカハト也

口 昔 古ノ時ノ字

口 正徳乙亥正月 登一

明朝 永正十一年 卦常 教 帝ノ年号乙亥 正徳

十年也 日本人 五百五 武 後 柏 京 院 永正十一年

アタニ 永正十一年乙亥ヨリ 寛文五乙未ニテ 末ニテ 百五

年 終 歟

口 華 漢ハ 所ノ 名

口 恒 徳 表 徳 号 易 恒 卦 本 付 ケリ

口 老 人 七十有八

口 鷹 氏 博 石 序ハ 序ノ 書ヲ 長ク 倣

入 尚 明 勸 教 傳 記アリ

大甲子... 可法... 詔... 法... 年... 本...
可成... 乃... 用... 多...

以己意... 以... 篇... 段... 天... 氏... 心... 用... 于... 中... 凡... 之... 傷... 寒...

篇... 段... 一... 篇... 一... 段... 之... 天... 氏... 心... 用... 于... 中... 凡... 之... 傷... 寒...

ソト一門... 之... 多... 少... 者... 凡... 之... 傷... 寒...

凡脈法... 諸... 書... 中... 年... 本... 用... 可... 成... 之... 如... 之...

經... 之... 凡... 之... 諸... 書... 中... 年... 本... 用... 可... 成... 之... 如... 之...

附屬... 下... 之... 凡... 之... 諸... 書... 中... 年... 本... 用... 可... 成... 之... 如... 之...

凡... 之... 諸... 書... 中... 年... 本... 用... 可... 成... 之... 如... 之...

此事也

而... 云... 法... 人... 對... 證... 而... 配... 藥... 謂... 之... 方... 用... 經...

諸... 病... 源... 而... 說... 其... 法... 謂... 之... 法... 之... 方... 用... 經...

於... 之... 方... 用... 經... 謂... 之... 法... 之... 方... 用... 經...

其... 傷... 寒... 一... 宗... 張... 仲... 景... 曰... 傷... 寒... 一... 宗... 李... 在... 地... 下...

中... 之... 方... 用... 經... 謂... 之... 法... 之... 方... 用... 經...

少... 兒... 科... 小... 兒... 門... 之... 方... 用... 經... 謂... 之... 法... 之... 方... 用... 經...

最... 之... 方... 用... 經... 謂... 之... 法... 之... 方... 用... 經...

而... 之... 方... 用... 經... 謂... 之... 法... 之... 方... 用... 經...

我理叶其方有ハ操テ末ニ記ス

参考トニエカシカエテスルヲモテ

○凡祖文口傳心授及自己歷年経験ヲ述レ

○天民ノ中ニヤヨリ口傳ニ或人ヲ以テ傳タレ

○方亦天民ノ所ニ経験ト雖フ經冬ノ尺カクテ

下ナク一門ノ末ニ附テ尚能人トモ施用ニ効

方ノ所裁ト也

○凡自己経験ニ詳ニ存病或用心以要法取

巧以愈者多附録者

天民七十八集ニテ東西南北各國醫國病人

瘡疥ニ試或臨院應變ノ用テ取脈ニ又

ニテ治愈ス下民共ニテ東ニ付テ也病人探

擇トトリヒヨリ瘡疥ノ多クモ可成路ト也

サモナキ下シハ所載ト也

○凡集録諸賢成子蓋為後學設總書

○醫學者所前固執古方以售今病故以再撰

活套

○天民此下再撰集録スルノ制也

便下ノ格ア果テラシラシクニタト也スレハ在学ノ文
ノ惟定本ニテシテ然ルホトニ此子コソ必宜キリ
子ゴヤナリクニテ固ク在子ヲ取テ存テ病アテカフ
下ナカレト也トカク難カニ意也リテ臨杭應慶
カ干需ナレホトニ丹波カ加城ナトシクハ浪套ヲ
其川ノ後ニ附テ在学臨杭應慶ニ通也
テ執中有程ヤラト也

有府翰ヲ書在書ニテ浪套ノ部門ニハ字ヲ切テ
ワライヤラシテ考テ多クナレハ其子ハ加城ノ位程
タトニ丹波ノ名ナレ也

執中有程 華子ニテリ何事モ時ヨリテ然キ
以スレカ中法物也辞言ハ兒ヨメトハ中ワカラ物ヲヤ
リカセ又ハ中ヤ兒ヨメ河ノ流ツ時イダキワキテ
モ川ニケテスレカ程也席流ノ上ニテ云ク諸病
本ヲ治スレカ執中也然レハ後急ニツリタレ時
是ハ中法ノ通スレ程スレカ程也此ノ名別法
其標法ニ程ノ心ヲホス物也況年トシカカ
心源タレテ執中法程法物ヲ書王海言卷記

今考ラシ固ク是ク去シテ行カヤトカク存スルハ此所
及言詔文字ニテノ上ニテアリヤ

口凡丹漢諸子法見諸書此算算書者集
算算書者載子法正解ニセハスレバ此所ニテ

口丹漢諸書採不録
口丹漢諸書採不録

ノセザルハアラズ歴代名醫ノ法験ヲアツメ
書ニテ古今諸受醫採所書抄ヲ作セ

ト思ハレ不暇ホト此月ヲ待也天候モム
ニテ精成乾ヤシク天候ノ此詔本付テカ名醫

口凡古方方多主救者多
口凡古方方多主救者多

口且如一科十貼枚
口且如一科十貼枚

一科トハ一劑后ト同トモ言ハル方又一劑カケ
二十貼トモ一貼一有ルモ有ツトモ

二十貼トモ一貼一有ルモ有ツトモ

有_レ一モ有_レづし青ハ大削_ニカケ在セタ_ルヨリ一
削カ_ニ五モ二_ニ五モ有_レじヤ_レシ_テ右_ニ貼_トキ
ニテ剪_ルハ_ト云_テ有_レ是_レ_ニ方_ハ九_ニヨリ_ハ削_ト
トス_ル其_レ例_ヲ下_ニ云_フ

口原_方用_ル葉_一五_一貼_止該_一錢_ノ
原_方ト_ハ云_ハ方_ノ下_也青_ハ大削_ニカケ_合
セ_シ時_方ノ原_方ノ用_ル葉_カ有_テ一_貼カ_一五_アル
ソ_トス_ル今_ハ止_一錢_ヲ該_ヨリ_也表_一貼_カニ_五
有_ス二_錢ト_スづ_レ已_ル下_ヲ削_ト云_フ

口從_其輕_テ以_テ取_ル
原_方ノ一_貼ガ_一五_トノ_云ハ_レ可_限サ_ルホ_トニ
五_トス_ル二_錢之_五ト_ス之_錢ト_其時_ク輕_テ
從_テ十_方一_ツ取_シト_云フ_ツ青_一五_モ今_レ
一_貼ハ_レ以_テ取_ル也_{日本}ニ_テ一_貼一_錢ニ_貼
有_レ部_移銀_在ニ_ク

口惟_知市_經都_作一_貼心_裁ノ
市_經ノ經_ニ至_ル方_ハ削_多シ_故ハ_削
ト_シテ_其葉_後在_一貼_トシ_テ剪_ルハ_ト

云テ有如此其能ヲ好シクニテ其ノ事ニヨリ
動テ不遠ニ今中削トスルハ新ニテ其ノ
上此名女ノ一段増テ明所也在トク人増テ其
洪ト下也

口凡在方云叹咽者今急改細切
親經云叹咽在人以口嚼其藥碎如豆粒而用
之後世雖用刀切而仍稱叹咽者其義
奉此之口大氏急改テ細切トスルハ其
人ノ合点ニ安キ様ト也

口凡修製法其石不別立篇目
其修製法篇凡ク不立一篇ノ下ニ物ヲ焼テ
細經スル丁敏索瑣トシケクコニカク先ヤ
ナシ凡鹵莽ト意粗ニシテ石用者妙ルヲ不修
焼テ石焼トトセキト也如此一様ノ下ニ付テト也
口凡云用水一盞即今白茅煮也
白茅蓋ハ白茅葉根也其根大ホア凡ホト今
約計トクニヤカハ凡ニ中ノ竹ヲ以テ宜ムル
半寸ハ八寸同也

餘傲此上

兼汗却氣付毛此格ソ也

口此學問中一條路邊

申ノ字カサ子テトヨミテ若伸ノ字作ル本アリ

此也書ハ不居言言ハ不居ト易有コトク

言テ云ホトハ書カシ又モクハ思ホト言

云シ又モクハ思ホト言カシ又モクハ思

ツ不居し所ツ今却問テ之申子テ云連ル也

口子賢者共ハ議

賢者ハ社カツ取馬サツ格ソ故天民初云

ニテ非ス也

口非敢自以爲是類賢者

天民此書ツ是トシテ毛テ居ノ賢者各別

カセ類ル非ス惟長ツ取互ツ格行正トタ

メシタシテ枉モトホクルウシクニタリル

此ツシリクハ章甚トサイワイハハタシカ

ト也口簡明便覽亦改詩文元賜行正云

新編學正

正徳十年乙亥新編集元也正徳十名付了前
あり八巻あり故巻之一正
口華嚴恒法老人唐博天民編集
前江口天民の字也 孟子莊子天民の字アリ
口姪孫鷹守愚惟明校正 嘉靖十八年
鷹守愚守愚の表法号惟明の字也
姪孫ハツイニコ也
蔣詔正徳之後序ヲ書ク時惟明カ大ハ

口新編學正傳卷之一

正徳十年乙亥新編集元也正徳十名付了前

あり八巻あり故巻之一正

口華嚴恒法老人唐博天民編集

前江口天民の字也 孟子莊子天民の字アリ

口姪孫鷹守愚惟明校正 嘉靖十八年

鷹守愚守愚の表法号惟明の字也

姪孫ハツイニコ也

蔣詔正徳之後序ヲ書ク時惟明カ大ハ

天民ハシシスル也ト書ケリ揚ハ明ハ天民
カメメシイノ子也

金陵三山街書肆松亭吳江繡樟

ナタカ石知

醫學或問 九五十一條

小波通鑑十四 或問設為問者之書而後是
叙之也 東子或問 本付ケリ

一 或問醫學源流自軒岐以來以醫為漸

鳴世子又著書立言俾後人可法者幾

何人哉 精明以告我

源ハ軒岐問答ニテ素是ク作セリ初ク云

流ハ却人知緩ホコ下ノ諸醫アリ云

蓋ハ軒岐ノ時ヨリ今明ニ至ニテ醫流ク

然ニテ名高クハマリテ人ニモ中ハヤカレ醫者ト又

著書立言後人ノ法トモナスマウ大醫者如

何從アルノ事ハ也

鳴ノ字 在矣アリ

醫學漸トハ醫學ノ漸 漸ハ事也

曰予嘗聞故學士宋公

言ハ天~~臣~~明ノ沙學士ニ有ク宋濂ハ人醫師

賈某ハ人ニシクラウクエシ見テ問ハフ所ノ説ヲ

奪得シ又ホト其説ヲ左ハケテ云ホモル所ナリ

シ請陳如左云

口故ハトモシ學士居テ不臣ヨリ之人在故ヲ

口公トハ尊テ云シ

名臣言行録宋濂明國補仕至學士云

其文集之中有ク醫師賈某云ク凡文而此

或問一也

口又第帝用經雖疑之宋士依倣而作

是宋トハ宋ヨリ是如國ノ時分也程子用經

ハ第帝ノ作ハアラ之如國ノ時分第帝ヨリ

習テ作シメルモテアルトウタカイツカケラ

シ先臣用經ノ云分理深者寧トトククシテ弘

ク可トシクトクシハ用經ハ天地ノ下ク云テ人カ

是府經終ノ下ク業子亦人カノ下ク云テ公臣地

ノ下ク業治務治ノ理通スルヤウ云クホト其言

素門六之正比大奇
氣運深而要其肯意而弘之也

九二五

若帝口而要而弘之四字文集ハ云々天長加タリ
同日五運

六九之 禮氏文集卷之三丙集廿六云素問ハ書必

應見也此正六運ハ此可也
出於我國ハ其氣象知々天

信有以氣運只如此云

天下早

烏素其堂氣微云和子爵号文字ホ十ウ

テ革帝ノ作アラシト云レタ素具ノ在書者シ然

之説者ニ史中故也天造曆法万象経絡流注ホ中

以事之其不帝アラスハ及ツ甲丁ニアラス法亦素具ヨリ

其凡雜經常儒朱子東坡十ト解疑アリ

何シハ素具信用セリハモアラス

口致辨ニハハ經ツカシカエウキニ正見ハ信實

有徴ト也 有徴トハ何トシテツセハ

ハ經ニ六運ノ大昌ホ及ニ依テノ病ノイク云トクト

カシカエ見ハ能合スルイアリ或為府経絡俞穴

ノイク云然レニ史ニテ針灸スルハ立所相應ス

亦陽陽應象抄録 幸村亮散為陽陽録

本付テ大宛素具ハ出書東シテ入書 膽
亮散ノ
口又素具

神中意レレ若事入レレ大德陽明奇レ肝為胃行津液在
腔列都官氣化則形出凡居於本付レレ
レ也何中物レ凡レ余餘レレ生是胃レ同肝レ行レレ凡レ餘ハ
神系レレ入レレ方治陽明者レ本付
論本付レレ於氣レ凡レ所レ人レ者レ子レ凡レ今病レ桐鹿レ凡
余教レ余レ入レレ治治レ余レ多レ本付
引見レレハ信レ而有微レ厚レ了明白也レサレ凡レホレレハ

雖ハ醫家ノ宗祖トスレ也

○此則秦越人知緩和緩無書可傳

○又トモ書レフレ不レ作レ痿レ凡レノ上レ年レニレ名レ高レ才

醫者也在レ問所レ以醫術レ世レ凡レ名レ此人

○下レトト也レ文字レノ中レ於收レ後レ凡レ醫和レ也レ書

○醫和春秋時秦人也レ在レ昭公元年レ晉

平公有病秦伯醫和レ之レ也レ醫和云レ疾不可

為也レ是謂レ逆女レ室與レ干レ或問レ之レ知レ也レ

○醫緩以之春秋時秦人也レ在レ成公十年レ晉

景公有病秦伯醫緩レ之レ也レ醫緩云レ疾不可

二人ノ童子被レハレ之レ醫也レ和レ之レ傷レ之レ也レトレ也

○其レ也レ二童子云レ七月ノ上レ膏レノ下レ疾レハレ針レ也

藥レ也レ不及レ也レ景公夢レ天レ以レ池レ有レクレサレ也レ醫

緩レ至レ于レ云レ疾レ不可レ為レ在レ膏レノ上レ膏レノ下レ

ト昔言フ字テ早公ト申也トテ礼ヲ厚クシテ
比中王ニ有ク人ノ事也

口部人所著中難經下

右問所ノ著書立言後人ノ法トス法醫
者ニ而此人ホセリ也田經百章二篇又八中
一事ニマテ増ノ明ク之ラニ之先難經九中
ト田經ノ千要ヲ早テ推明ス可也

口又下此則淳中意蓋陀

淳中ハ氏意ハ名也淳中ハ二字ハ先氏ハ

漢代法而董公ノ下也界記列傳字ハ載セタ

ノ界記醫者ノ載名此董公篇鶴二人也

而問傳ハ也多

口既ニ能經鳩顧固亦尋列傳ノ一術也

流傳事列傳七中一既著后人ニ説テ云人

辨ハ学効シ先カ然シ物化ニテハ不可也効探

ト力シハ又ラカシ言中スルハ穀乳ニ於此

血脈毛流通シ病有牛是ヲ以テ古ノ仙者為

道ヲ列シ事能然ニ如經鳩ノ如顧テ引挽

膈脾動關筋以承難老后下アリ
喜ハ然ハ本ノ根ニフアリトヤウテ居ル也其如ク
今モ其ツノハシテ氣血ヲ流通セヨト也鷓鴣ノ力
ハ動ニ育ツヒ子リニワス也人モ骨節ノ通ニサレテ
力ヲハタラセシメカ然ト也此事ツサシテ然経鷓鴣ノ
力ノ如ク様ニ下ニモ通リ別極麻ノ一術ニテ其良
也ニ似サリト也

口至於刺眩背滿腸胃去疾清氣神壯
此藥ハ此カ作ノ所也國ニモアルノ病針灸

藥ノ不及所ニハ得テ麻痺散居薬ヲ製セテ
碎テ寢ナク凡ルニ服々背ヲ切破テ膏日業付テ
十日オノ向ニ愈シタノ如ク様ニ事ハ神薬ナク思
儀ナレトニテ神曲居家ノ痛治ハアラハレト何
トモ評別ハナラヌト也

口素々醫術司馬遷備誌ニ
其起養公ノ傳ニヤ中時ヨリ醫者ノ方術ヲ好同
郡元里ノ公常湯慶法入ツ師トシテ上平ニ
ナリ然レ評也其レワサシ素々醫術ノ居

○**通風背風**

同傳所記諸書居人ノ病シ由レ此等ノ以テ中法意
論或ハ風通風居亦安陽部都里ノ南開方
ノ病シ背風居チアリ臆情隠通風モ背
風モ風病居チアリ其レニ付テ日本ニテモ説ク付
中風ノ記モ多ク云記アリ其チ之モ背風ニ居
ノ是ニ云記ク云ト云レ居テ明ノ時代ニ知
レ七ハ惟ホ知方知ト也

○**通風水其治痛之深者多**

其ハ通風背風居病チ至何ノ病記居チ不知
トハ意カ治痛ノ深者トフカチム子ハモト
メラウレトニテハチツト也

○**又下此則張栻之金匱玉經及傳諸**

伊景長沙太守ニテ有テ醫道ニ通也ノ
人ニテ意思有ル人ニテ向レ此ノ又ノ書者著
シタク有遺玉經ニ經ハ之也ニテ而傳也金
匱玉經畧ハ三卷アリ傳也諸ハ日本ニ英同枚

シタツ

○中右不刊抄曲也

在後經不刊書也トアリ書者ツク而用ハレト

因ジト也曲ハツシニツキニ書ツクニ先ク云書

ノ異名也

言ハ伊集平書ハ中右トイワクニテモ可用然

梅丘書ツト也如曲ハホクヲ言ハツ

○策靜於之乳所傳而歌嗜慾食飲罷者

上所致異分不議業之文字錯簡

伊集平印傳得地ハ枚外感ノ下詳云有書

要畧ハ内傳ハ云テアリ此サエハ是十九

亦文字錯簡アルト序次上中下付

テ其理ハ亦ニクキ也

丹波翁傳ハ羅成之伝ハ伊集平書ハ殊

篇新簡ノ録ヲ取抄タル故錯簡アリ

経事多ク居タノ傳定ハ書者内ニモ右ノ

中ニテ有ル

口又下此則王叔和叔和等故傳華院書

為脈經

脈經序云晉大醫令王叔和撰類脈經
十卷其言原準黃帝內經君托素問而
嬰醫書以扁鵲秦皇公華佗張仲景堂
甫士安之語下其內經雜錄其外諸書之
說之集于脈經之作之夕好定家古書也
叙瀉陽內介

陽之內為屬之介陽府屬之平是之表言
脈經外之平陽經序之平之平之平

● 辨三部九候方人迎氣

上長八上焦中焦下焦下之部以命之
三之所候于九候也右部八左在右部以
寸關尺之部下命于一部以浮中沉之
之候也之部九候下命之夕
亦之長八之陽明經咽之結喉之右子以
人迎下之夕外感之候年之左脈脈經之左
右右部以氣口下命之內陽之候右部
中下之平關前寸後之入迎下之夕外感

シ候衣手関前寸流ノ氣下シテ内傷ノ
候多ク今ノ診脈ノ法是也

○條陳十二經終ノ

碑表八年大陰脈經八中府ヨリテ列缺ヨ
リ終合シ小商ノ脈ニ終ル迄ヤウニ一經ノ始明
ケテカ條陳ト一ノ今凡テ下也

○伯又之焦也為六府之病最為著明

言ハ脈經陰陽ノ外ニ氣九候ノ迎氣

等十二經終ノ下又經云冬ニ脈ノ之焦也

古府ノ病ノ下モカクノ下ナク著明トアキ

ラカニ知ルノ下ナク也
新改正凡ハ云高陽也脈ノ殺人ノ録也

口傷年ニ女男子ノ脈ノ肩胛ノ脈歌遂使

王宗顯ノ捷徑乃整案人ノ捷徑也
其本ノ書者不考之也 十也捷徑唐本ニ云アリ

女男子ハ高陽也下ナク振ハクニ也言ハ高陽

生脈經ノ取テ振トクニ經ノ門也下脈

歌ニテ王叔和カ脈訣ト外題ニテ考シタ

人者初カカ書トト思ヒテ歴クノ醫者云

註中トシタノ好ニ結句本書ノ脈經也云云

惜しやう却り也

款毛歌毛同也款ニテ短ク念ム

層陋ハアサクイマシキトノ人層モアサクモ也

又下此則留弗先字其病源後編似不為

無所見他言風寒二氣而石若濕

後編二字後編ニテ若ハ何源流ニ隨ノ

在葉中一帝詔稿原後編カ先撰ス

トアリ

漢ハ留弗先ハ上長ヨリ隨ニテノ書務ホ

不之居トキモノ如シ然ハ風寒ニ氣事

計評云テ濕楔相火ノ病ハ多キモナリ

濕楔ノイラ不云ハ其丈セトアヤニリツル也

故似クヲトカスニセメツ似字ハ付ヨ

又下此則平冰冰推去運去氣ノ要

源流ハ記有啓事子ト云テ書問註シ人

表ハ五運ノハ主運ニ表運主氣表氣司天

在泉中ト云テ表ニ云テ表ノ有ルヲ平氷記云

命丁テ不元玉策ニ平表地ニリ也

○ 周詳地密而人し所詳し

寛ハ周詳ト上子クワニコラカニ地密ト先シカニ

スキニクニ先シカニ云云先凡六丁本増ノ明

カスル丁ク其シニ十ウニニ辰夕方ニテハ高階トヤハ

ワリトコヨリテ庶流ノ理ニ不直ト也

○ 又下此則王壽源出能思能州根林

源流ハ思能新出行テ兼テテカスルト

云テテテテテテテテテテテテテテテテ

○ 以終人識操意仁惻隱

終人トハ常ノ人ニスクレテテテテテテテテテ

云テテテテテテテテテテテテテテテテ

思能ハ善也ノ人トスクレテテテテテテテテテ

テテテテテテテテテテテテテテテテ

○ 及相王害人ノ禍至慎

テテテテテテテテテテテテテテテテ

ヤテテテテテテテテテテテテテテテテ

○ 善也ノ人ノ素シ貴賤貧富富一ニテテテテ

乾、思、こ、う、し、て、病、者、其、腦、口、也、て、有、く
カ、コ、ト、ク、情、ノ、深、ク、也、ヨ、リ、也、お、学、子、少、意、思、こ
テ、務、法、ス、ル、ハ、醫、者、ノ、深、戒、ナ、リ、愚、醫、人、性、情、
ヲ、賦、ス、ル、ト、甚、可、哀、傷、居、テ、ア、リ、其、シ、ツ、ナ、シ、テ、至
為、憤、切、也、

○ 凡人、國、其、其、滿、也、亦、以、之、
早、勉、意、思、深、中、上、年、ニ、テ、有、ク、放、其、流、ヲ
学、ル、者、滿、也、ト、ニ、中、マ、カ、キ、ン、入、ル、深、也、
乃、得、テ、至、極、初、ハ、不、至、ト、モ、上、年、后、シ、タ、ク

○ 但、石、割、傷、也、之、書、或、少、也、
傷、也、ハ、筋、病、中、テ、大、病、テ、流、毫、厘、シ、タ、カ
ニ、ハ、死、也、及、此、事、居、テ、筋、書、也、ホ、シ、タ、ル、傷
也、ノ、書、シ、作、リ、ハ、至、ハ、貴、也、恨、マ、リ、也、
○ 又、傷、也、ハ、不、知、傷、也、ノ、輕、ト、モ、疑、傳、也、
○ 評、云、ク、至、也、ハ、貴、也、恨、也、

○ 壽、雖、開、明、外、其、甚、秘、也、
言、ハ、秘、也、ヲ、業、者、病、氣、行、付、林、不、灼、者、ノ、一、ク、
評、云、也、于、此、上、也、針、ノ、一、ク、也、者、云、ク、

一編ノ見トテカクシテスルノ事也針ニ止ルカ
クシハ法病地葉ト同也

白蘭ノ開也明也トアリ

白符ハ法符ハ口禁ハ二三ナリ一或アリ

抄ハ法符アリ書ク外其甚ハ在ナリトアリ

口又下此則錦乙腐也時許叔傲

一人ノ傳記諸書ニ詳也

口叔傲在準泯尺寸

言ハ格或ノ定久ハ痔流シテトコナリテ移也

痔流ハカツク

口事時雖以出奇在葉ノ

字時七口也ノ事ハリトテ身ノ腸クニキリ

テ居ル様ニ事ハリテ服ハル事ニ對シテ

先ハ立所ハレハ様臨梳應葉モ然シ

ク人ナレバニダ範圍トナリカコニテ事離シ

在二人ハ伊呂波流ノ粗トアラキ雨ノ有得

口元深送梳ノ國奥

○國國の家ノラク匠心解してハ仲業カ至極
ノ所ニ至テ其精華ト被テシテ此ノ事

○建為カ務シテ方ニハ一ノ事ニテハ
肝履ニ比スルニ肝實ニ浮青丸ト包ニテ

ニクク

○肝有相火有浮之補腎為真水有神

肝ノタカフニテ諸書ニテハ臨臨底最論

○中ニテ混氣衰ト云々有神浮尼ク

○用經ノ旨ヲ究シ明ニクナリ也

○を知者ニ解取法

○錦氏ノ云々理ノ至極ニテハ了んカト知者

○ハ治法ヲ取テ中ニ也河名トトモ法ヲ取タリ

○拾ルヲ中ニ認者若シキ事居タリ之ヲ取知也

○其貴書散テ出ル事ハ多クハ其ノ事トモ

○者出カ集タテテ其ノ誤トトモ多ク也

○又下世則上在張元素河間劉完素

○水張從正ノ難ニテ是カスル事可也

○在之人ノ下下ニテ知リ

口元素之予完素雖設為奇夢異人

○**龜果**百中一**張**元素夢天有人奇之

心之因中其申書教也之石下之其ヨリ

醫術上中ナリヲト也亦異人陸之也人

○**河間**河ヲ飲也之石碎ナリシカ碎ナク醫

術河微シテ上中ナリ老トアリ物ニ秘奇

夢タハ元素ヤリ異人完素中ハ

口**糖**神其授受

授受ヲ神變奇物ナレ云云也凡

實ハ九カ風ヲ以テ無記ト感勅齋食

冬モソノ無記**再**ノ字

口**若**進正ノ常中完素

○**有**河間ト同時張子私名者出テ河

カ正源ソウイダテ

口元素ハ在テ今病決テ以相傳

○其時南リテ配劑創名ニシテ在テ方ニ用

故書モハ傳津常ト是也經十ハ有ハ也

法ハハ常ト是トナリテ附存ニ也

有る也此上中ノ池也向來長力地ニ多ク是
カレト其學問ノ下ラキ力多ク得たり也
○果推明内ノ二傷ノ一ノ傷ヲ辨成爲多ク他ノ
カクモ十中ノ一ノ傷ノ一ノ傷ヲ辨成爲多ク他ノ
十二年中ノ一ノ傷ノ一ノ傷ヲ辨成爲多ク他ノ
モトク補服セシメテ之ヲ何トシテ服
○おん少付クテ之ヲ何トシテ服
一物おヨリシシルニ如クお爲六府を服ルヲ
多ク平安也其ノ下シテお平則諸病平也此

○從正以所吐下之流風寒暑濕燥火ノ
儒門事親書ニ云流六門ノ立テ病ハ素也日
リ人ガ有ルモノテ六ノ外ヨリ入ル内ヨリ
生スル治邪氣也邪氣ノ入ルニ如ク公連ニ政
去テ之ト云如此ニ治テ諸病平安也下レテ
攻削ヲ能ク用テ下レテ之ヲ學ぶニ如ク公連ニ政
從正ガヤウニシテ之ヲ公鳥ノ物ノニ子ニテ人ノ殺
サント也丹溪モ此下ヲ格致ニ云テ
○關鍵ニ云云云云云云云云云云云云云云

日定素諳凡火之病以**風**病抗氣也一
十九條

風定暑濕燥火之害之て凡火は至真氣
火諳病抗氣也凡火之病以
才又下之氣也凡火之病以
云此十九條之等之病或之也

日圓奧粹微

圓奧ハ口ヨリ圓ノ微也凡病之至又凡火ノ
心在ホ下ノ方諸諳ハ似又下テモナシ也

日大龍官局

常微常ホ龍年ハ陸師又張常先ニ録有テ
和利有方ノ書編集其シテ大龍官局録也

日髣髴表似ノ註也

穴凡其設施則亦ハ知攻補二
設施ハ二ウケホトコヌトテ痛以テ也地ノ瘡以

攻補ノ二ウケホトコヌトテ痛以テ也地ノ瘡以
其レハ二ウケホトコヌトテ痛以テ也地ノ瘡以
一統ニ知母其物ノ用テ皆中ノ相大テ攻也凡
則皆中ノ氣也此ハ攻補也凡

日近代名醫ハ一東易軒吳中居ニテ二本草也中

加多ク文集ハナシ

羅之字ハ謙南車也ノ弟子漸也實也
二ノ字也他ハハ向在存書統

呂漢字ハ元膺ハ向二ハ三有

右二人ハ車也カ餘リラ子ハクツ

註林羅知何丹漢

在文河石中流ヲ有得シタ

又表台ハ車依也之清壽

原流ハ車依字ハ長輔集類ニ以テハ他ハ

清壽唯經本異他ハ厭徵録ハ

二人ハ書ヲ他ヲ有者也

嗟乎自有内經

此ヨリ又文集ハ言也

有司ハ書物也其ハ一切ノ物也

亥ハイカテ了アル物ハキト

歴代ハ名書ハ山也此也最トケ

一ノ字也其ハ言ハクハ言ハク

一ノ字也其ハ言ハクハ言ハク

宋中興書ニ凡ノ其後ハ也ノ多

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二或問醫學檢受ト得閑亭ノ也

○此凡ノ上ノ書ヲ受テ下ノ問也

○得閑亭ト醫學ノ會也ト云レ也

○青蓮ノ翁アリト云レト云レト云レ

○得云醫學不之也有解其義也

○得云禮記ノ下也

○或謂禮又相承謂之也

○禮人註之義也世流人多用物觀スト云

○醫ニ代ハクト中也信是モアリ也ト云

世に凡そ下三代之に醫の業の用を云

○或謂善讀之世に書則為之世に醫

○宋書常璩文集所謂之世者一云針灸

二云神農本草之云素問脈經此二

書のヨシク之世に云云如北齊書凡

天保元之世に醫の業の用を云云

○常茶の字其可也手抄醫

二書ハ常茶ト云ハ其可也手抄醫

ト云云甲下ニタラ

○醫者不止之世

祖父相承之世可也亦之世に書ノ

○限權可法者云云ニテ也

○取其可法者言云云ト云云ト云

トスル所云也云云ト云云ト云

コト云レシ之作之書云云ト云

○依歸ハヨリヨレヤタニヨル云

○ 爾ハ遠近ヤ

○ 故曾叔祖ノ故ハモト伝ハ曾ハ七代

迄ヲ云ヤ叔祖トハシテ子シウヤ天民シクマ

ニヒシク午ノ昆也

○ 誠何府表ノ府表ハ号号也

○ 同世同郷ノ假左同世タリ凡程遠クハ註モ

有リホニ同郷ナリシテ草居モシ

○ 親者ノ字親書有長ウツル

○ 白身ノ天民カ祀ヤ父丹澤流ノ醫者

○ 天民ニテ自來スト的傳ノ心ツテ下

甲下シテツ

○ 箕裘ノ一 駉書有弓屋ノ子ハ本カノ枝

シタワメテ箕ツ作ルニ子ツシ鍛冶屋ノ子ハ又

カ鉄ツノハ口ケテ鉄器ツツ中在スルツリテ大マ

嵐ノ波キレシ集メテツ中在スルツリテ大マ

スルツ惟其家業ニ獨テ總ツ云天民ハ其時

ト知モナク質鉄ト云潤法メ家業ヲ不總

ニツ恨ムト甲下ツ云メツ

三 鄭問元則害、一、六微肯大諱、一、文ヲ奉
テ問ノ此一、ウツ此一、凡、テ云、問ノ下、テ安、元ツ
口 王安石道、一、魏書有、濟、河、云、內、經、曰、元、則
害、兼、則、割、一、句、至、要、之、文、也、王、大、僕、河、間
相、若、諱、之、ス、一、リ、考、雖、然、然、未、集、一、所
アリ、故、王、安、道、濟、河、曰、亦、此、ツ、諱、一、リ、考、
一、氏、一、ダ、未、集、ノ、所、有、故、天、臣、亦、此、鄭、問、其
畧、ツ、陳、ル、ソ、ト、也

口 地理、一、應、六、微、氣、倍、ト、ハ、地、理、ト、ハ、地、

山川、一、亦、本、ソ、ナ、ワ、リ、テ、是、一、河、ノ、氣、所、ツ、地、理
一、也、亦、鄭、ト、ハ、一、年、ツ、六、微、一、句、テ、一、節、中、一、氣
一、ヲ、主、テ、一、年、ツ、ス、ベ、テ、其、位、一、應、之、長、ル、ル、ツ
一、所、漢、ノ、陰、一、陽、一、方、陰、陽、明、一、方、陽、ノ、天、一、六、氣、力
一、本、火、出、金、水、地、一、交、行、ト、一、應、之、六、方、一、存、
一、方、順、行、ス、ル、ツ、地、理、一、應、之、六、微、氣、倍、也、其、六、氣
一、名、一、年、日、一、一、歲、中、一、終、ル、ツ、此、一、如、何、問、也
口 顯明、一、右、表、方、一、位、一、ト、ハ、是、一、六、氣、ノ、六、方、一、
一、位、一、而、長、ル、一、ツ、云、始、一、テ、亦、ス、一、顯、明、ト、ハ、王、註、

日出謂之顯明日也。明ツアラフラス后也。
而東方ツ在トハ南面シテ南方ツ在トサス。
東ヨリ南一ヨツテ表火ノ位ト云々也。此等テ君
火ノ位ノ知ツシラセテハ神田顯明ノ在居ヨリ
君火治ク居ニテ十五内六節所取ク位ツ云々
云々時云々云々時ハ二月申ヨリ四月申ニテ
方位ツ云々時ハ卯辰己ノ間ハ陰月位也。此
君火ハ二ノ氣也。於ラハ十也。此等ノ神氣チラフ
不出ト云々。此顯明ノ在居ノ知安チ所ツテツキリ
知ラセテ其レヨリ於ルク云々知ラセシクメ也。故ニ
二ノ氣モ此等ノ顯明ツ務テ云々於テホス。
○君火ノ在居行一歩相火治ク。君火在トハ
南方ニアタルフ也。行トハ王經。南面シテ見レハ
在位者也。故ニ在位ヨリフ也。行居也。鳥經
ニ相火ハ君火ノ臣也。君火ノ運ニ伴テ合ラ行リ
故ニ臣行居也。余氣治後行居。此等ニ臣居ハ表
對ル臣居也。故也。ト云々。此等ノ在居ノ在居
所ニテ知ツク一歩トハ一氣也。日午七刻也。

ヲ主ル一ノ八十七刻中トハ一晝夜ヲ百刻ト定

ルヤ於ハ百刻中ニ刻中不運也今年辛酉日八十七

刻中ノ一歩ヲ六歩右也テ見ルハ

六ハ百歩中ノ日

六八四百八十刻

六七四十二刻

中中ハ六六三刻

右郡右ら百歩中あり右方

一日一夜ノ百刻ヲ回ワシバ一カキテ百刻也

二十ハ刻ヲ回者

此ノ方キ中あり右日ノ

テ一歳ヲ統ルヲ物ル

十日ノ一歳ノ日

后地有象シテ有亦小ノ月

十日ノ日也

六日ノ日也

有餘ナリ甚シク

之年ニ一カクノ

○相火はくわの時を以て云。四月申ヨリ六月
申ニテ方位ヲ以て云。己年東ノ向ニノ氣
カ陽相火ヤ

○漢行一歩は氣流を時を以て云。六月ノ
申ヨリ八月ノ申ニテ方位ヲ以て云。東甲酉ノ向
ハノ氣ノ大陰濕出ヤ

○漢行一歩は金ノ氣流を時を以て云。八月申
ヨリ十月申ニテ方位ヲ以て云。酉戌亥ノ向ハ
ハノ氣ノ陽明燥金ヤ

○漢行一歩は水ノ氣流を時を以て云。十月ノ
申ヨリ十二月ノ申ニテ方位ヲ以て云。亥子丑ノ
向ハノ氣ノ太陽宅水ヤ

○漢行一歩は木ノ氣流を時を以て云。十二月
ノ申ヨリ二月ノ申ニテ方位ヲ以て云。丑寅卯
ノ向ハノ氣ノ厥風木ヤ

○漢行一歩は君火流を時を以て云。二月申ヨリ
四月ノ申ニテ方位ヲ以て云。巳午未ノ向ハ

○相火ノ下水ノ氣流を時を以て云。漢行一歩
ハノ氣ノ水ノ中ハハノ氣ノ水ノ中ハハノ氣ノ水ノ中ハ

相火ノ所ニテハ水氣氣ノ水克火ノ正字ヲ
書クアリ君史ノ下陽精氣ノ后ハ陽精氣水
ノ用也水ノクモリ也君史ハ其氣和九ニ強テ
水ノ用シテ下ニ氣サセメソ
元則害氣西制一素問ハ元ノ字ニ
帝云何也岐伯云此七字有天子畏之陰多
此二句ハ上ヲ多テノ及是也言ハ上云如ク六氣
六方ニ分布シテ居テ運行ス其内ハ下ナリト云
元則和カ勝ツ所ノ物ヲ害スル也辟言ハ火元

ハ心ツ害スルヤソクテ下ニ氣テ居物カ和テ
西制シカスソ濟細云元則害氣西制ノ二
句ハ言抑其過也云

口制則生也ト濟細云制則生也ト云リ
生也ト云云也

外列陰衰
制則生也

害則敗也

生也ト云病

有制之常

○割則生代トハ濟田云割スル下アシハ六九
元ニ有至平等ニ地テ百物レシク而要代完
ル下ナク下ニ天民ノ再叙アリ
生代トハ以造代し用云ト濟田アリ割スル下
アシハ方比ニ造代ニ止リ也
○外列造表 濟田云言ハ六九氣分布主
造為造表昭然可及下シ六九カ外難
列リ居テ造表スル下也天民ノハ外ニ位
而列リ居ル物ハ造ニ而旧ニ氣ハ所ノ物ハ表テ

居ル下トテ叙シ玉ツテ

○害則敗礼生代方病トハ濟田ニ害則敗
礼ト云フト上ノ割則生代ト云フト相對
而見ヨ理始通ス居リ害則敗礼ト割則
生代トハウラフモテ也亦濟田ニ生代方病
居生代ハ百物ニスベテ云ト云リ言ハ元テ害
尽而敗礼スハ百物方病居ル也下ニ
天民ノ再叙アリ
○又五行ノ本出冷水

~~水~~

此ヨリ常同濟河ノ説ニ合テ天子臣註叙流
○火有二一水ノ内火ヲ君相ノ二ト名テ表
火ヲ土氣ノ根也相火此中位ニテ土方、
分布スルヲ

○物氣自丑至卯ト此ヨリ以下土氣ノ
一氣ヲ六節ニ分テ至ル所ト名位リヲ指テ
ニラスルツ大空ヨリ考方ニ至テ土中自巳申
七刻中トヤ此一歩也在表氣ノ
○ニテ氣トト下流氣ニ至テ土表ニテ一歲ノ

流トヤ一歩ニ四節トト四六二中四節流ルト云
○又所謂顯明ト此ヨリ以下在ノ經ニテ
一歩トト每歛スルヲ

○日出於卯ト卯ノ地東南方ヨリ日初テ明白
花ヨリ顯明ト名中陰表土ノ位ノ地也其
レヨリ右遷る迄中土氣位ニテ居ルヲ右遷ト
八南面在位ノ在也表土ノ在遷行一歩ト
所ニ考記スルヲ

○土氣者在遷土氣者在隨ト土氣ノ在遷

ハ勿論也天地は連なりスニテ白虎通ニ
云天は連日月は星を行スト有ルは依テ今
言ニ毛書タルト是レ先は在弗ヨリハ洪所ト
也東ヨリ南行クハ氣ヲ右行テハ天は連不明也
ハ故云是行ハ天は連ハテツキリト天地ハ地
連シハ氣ハ右連ト云々ハ一處ニ付テ天は連
ニ連テハ氣ハ右連而行ク程ニ故ニ是行ハ人
シ用テハ此ハ天は連ノ誤也ト也王氏馬氏ノ説在
アリ馬氏ノ説在也

ハ右位下ハ此ハ在相火ニ下ハ水氣氣ノ位
ヨリニ下ハ水ノ位ニ在也ハ水氣氣ノ位下ニ義
者アリ

ハ王氏云義ハ王安石也則漢四ニ云々義ハ
字訓ハ云々ハ漢四書ニアリハ義猶隨
原ハ右位ハ水ノ位ニ在ルハ義元ハ云々ハ
以ヨク割ハ中ニ在ルハ依テ有階ノ義
ハ階ノ義ハ有ルハ也ハ義ハ云々ハ位ハ
ル下ハ義ハ有ルハ也ハ義ハ云々ハ階ノ

氣也氣ト云テモ氣ト云ウケカウノムテハ
ナク上ノク下ニ流ルハツツテコワイ物
口害者害氣者元氣ハ腎氣ハ火元ハ水
下ニ氣テ流ル可水ノ為ニ火元氣也其
元氣ノ在ニ火カ害スル程ニ水カテ火ヲ割
スルヲ

○一元者天一ト一元ト火ニ流ル水也一
ノ水ツ身一元ト火ニ流ル水カハスル
○火元者水カハスル火カハスル元氣也

五折流元氣トスル所有ツ

口運化ニ火元トハレハ止所有ツ

口火元則新氣ハ水カハスル五折ヲ

云ノ在ニ火カハスル五折ニ其元則隨

之而流ル云始ハ心火カハスル元則

腎水雖心火カハスル元則腎水雖心火

ス口元則水起テ火カハスル元則水

ヲ助ルツ此ハ腎氣ハ子母ヲ救ニ似多ク

氣者如此也

口立行賜儀ハカクシトロウ也言ハ立行トシニ
テモ一ツ元テ賜シテ亦則セラシテシトロウ也
是立行賜儀ノ理於不期而於者也自然ノ
理ニテカク有ルヤ也

口割則シテ代者言テ割ストハ元ヲ割而賜下
ナカラレハ元セシトハ代トハ送代ノ用也言ハ元物ヲ
割而元元換送代シトク而不息也ト何ノ
実態下有テテノ実態をシトクハ所シテ常法
ト其考ハ割スル所ヨリカレツ

口外列儀ニ表者言テ所儀ノ水カ表テ元
ハ所ノ水カ極テ度ニ成程ニ水カヲ割シテ
ス下ナラ又ツ各法字ニ四ツ可付儀言ハ一車ノ
薪ニ一車ノ水ヲ以テケス心ノ小ツ以テ大ツ割シ
唇ス下ハナラ子長根車水ハ火ニ賜ツ所カ正体
ナヨリ少ハツナ元送理有ツ水實ハ火邊ニ表
東ナ割シ唇ス下ハナラ又ツ割シテナカ又ニ依テ
病病ト成ルツト云ハ水淨回ハ外列儀ニ表下
地言ハ水カ名節ニ立送ニ為成ニ表下

此ノ心ハ或大陰陰ニ陽明燥金ナリシ治方ニ
去氣中命命而立治ニ陰陽表氣法見ニナリ
天民ノ心ト名別也極馬氏經六天民ノ心ニ
通ニ布氣經ノ經六源田ノ心ニ通ニ布氣
○在天比為六陰平陰ニ云レ所ツ云ツ九極
六陰ノ在ナク
○在人力為六陰ニ云レ極ニ云レ極ニ云レ極
風電暑濕燥火ノ六陰ノ人ノ六極ト云レ
陰平也

口苦則助氣言ニ 表ト云レ別ニ陰ニ表力
此レ九ツ表氣ノ水氣表甚ナリ陰ニ別
在ナク云レ云レ自氣物ノ氣モ云レ極ニ
凡物ノ皆經極ト云レ極ニ云レ極ニ云レ極
カト云レ極ニ云レ極ニ云レ極ニ云レ極
云レ云レ極ニ云レ極ニ云レ極ニ云レ極
表ニ云レ極ニ云レ極ニ云レ極ニ云レ極
別ニ云レ極ニ云レ極ニ云レ極ニ云レ極
表則助氣言ニ表者ノ氣ニ云レ極ニ云レ極

切正別元下十是。依了結卦必死中極之輕
至之存りや。已に其病の極に達す。其病
口大塊の天化下也。在字ノ字也。已に其病
口病真死トハシク危弱にシリ。中ノ真實ノ病
也。故に死るん后ハ少ク真ノ病ノ真ノ字同也
口大塊也。斯レハ元則害氣西制ノ理大氣
前ノ事集ノ初ノ補トハ思氏ノ少評云也
レ又ホ下。王宮道ノ深細ク考者ナリ。口法心
也。醫學問目運氣所布馬氏註張氏註
中初ノ考之ハ明白也。病レハ

四

或問丹溪是也。一。陽常有餘陰常不足。一。格致中云。此
日月ノ盈虚ヲ以陽有餘陰不足ノ理ヲ論
明シタシ

口氣常有餘血。一。氣陽亢極。常有餘
之血。陰亢極。常有不足。下格致。論ニ多
口於是也。一。丹溪云。升ニテ是也。左
口第指ノ。既書ナリ。口ノ遠者。少在。陽有

餘氣有餘居之而陽虛氣虛居之八相是之

知カ何トシテノ事

云其所謂陽陽氣血

天氏ノ云々言ハ丹溪ノ陽陽氣血ノ虛實ハ天
地日月對待リテ天ハ陽ナリ地外ヲメクハ
陰也又中ニ居ル亦日陽ニシテ月外ヲメクハ
陰メ日ノ走ツ多テ明ツトテ地外ニテ
陰ニクハ其理纏奥ト深遠ニメ明ニカ
質也ノ人テチカ不道明ニカカ
也

又陽常有餘陰常有不足

天地ニテ云フ下百物ヲチテ云トテ東南ハ陽西
北ハ陰日ハ陽月ハ陰后ノ數亦ノ力ニテ云ハ
一俾ツチ子テ歸スルトテ上ノ數ハ陽下ノ數ハ陰云
陽ノ氣外ヲチテ去テ陰ノ氣内ヲチテ入テ
口非直チ氣為陽而血為陰

氣血ヲ陰陽トチテ外亦陰陽ノ理全體ニ

ソナエテ有ル依テ直チチ非ス法直チ字註

也勿論氣血ニ陰陽ニテハ有シ此ノカチラス法

心也此ヲ醫家正語ヲスル氣血ノ外別ニ何物
ヲ直ニ指シテ陰陽ト定ムキソト也此ハ一偏ノ見
也又医ノ人深シク也。后ニ云氣血ヲ陰陽トサ、
イテ石可シカレハ氣血ノ外ニ陰陽ヲ而語石可
ト有故正語ノ説ハ有可取

口經云陽中有陰陰中亦有陽
天元紀大論也王註釋也首書ニアリ

陽中有陰トハ南方ハ陽ヲ主レ離中ノ
中一ノ陰也此陽中ニ有陰ヲ換セ人カテ云心

ノ氣ハ陽ヲ陽トシ血ハ陰トシ此陽中ニ有陰

故ノ亦陰中ニ有陽トハ北方ハ陽ヲ陰ト主レ

坎中ニ主レ一ノ陽也此陰中ニ有陽ヲ換セ

人カテ云背ノ氣カテ陰トシ血ノ氣カテ

坎中ニ有陽故ノ真氣ハ水中ニヤトレ

元氣トシ也背間ノ動氣此也命門也云

口正所謂根陽不生ト正所謂根句法ハ在

謂タラハ月ハ時書カテ也此此語ハ經

不見也陽生ハ陰長ト云語ハ有レ也

口以四君子補氣中法。四君子ノ旨子ハ
茲身ヲ令得也子ハ洪チクキツ花鳥好ハ
族ノ云。胃府水穀ヲ消化スルハ
釜ノ内ニテ粥ヲ煮ルヤウチ地也水穀消化
シテ其ノケ上ニアガリ肺ニ入テ氣トナリ心
今血トナリ肌膚各肉ノ間トモナリク相ナ
経ハクテタレヒボノヤウチ地也其ニホ肉湯
ツナテ流スヤウチヒボノ内ノ湯ハ血也ヒボノ外
ノイケハ氣也ヒボノ外ノ肉ノ間也

四君子湯ノ功効ヲ云

口今白本ニシテ脾胃ノ氣ノイケシ
其ノ功効ニテ肺ノ氣強クナレカ今ノ性也
口白本ノ脾胃ノイケシトモ強ク示示脾胃
ノ性ノ燥カス性也
口茯苓 脾胃ノ氣ノイケシハ山土ノ性ニ
先地也茯苓者ニテ濕シ下ノ列リトカ候
通ニ云レホ人多クガ以深強クナル性也
口甘草 十二経年列ノ藥也示示脾胃ノ

○此補也右氣味ヲ以テ見レハ脾肺ノ氣ノ少クテ
強クナレヤ胃君子ノ氣補氣ハ是也脾肺ノ氣
ノ少クテ力ノ弱ナレバ陰ト云テ此ハ胃君子ノ氣
ヲ補ハ向語也力ノ弱モ氣ノ少クテヨリ生ズル
故ニ氣中ノ陰ヲ補ル云イテテ氣居間ヲ

陰ト云

○血中陰履用四物リ血中陰ハ血中陰

○ニツノ陰ノ字陽ノ字ニツシテ表ト也

○四物湯ノ方好ク云

○地黄ノ葉ノ下ニ有テ經脈ノ乾中ク然ラシメテ

カス性也

○當歸ノ經脈ノ内ハトクノ血ニ此トクノ内ヲ揚

陳シテウカエタレテ所ヲ行シテ水ヲ通スヤ

○少ノ内性也此性是ノ少クテ也

○川芎ノ辛温トテ能ク散シ是ノ内性

也當歸ノ是ツクテコレヲ以テ是ノ内性

内ツ通レバ此等ハ血ヲ氣トステ中ニ通ス性

○此等ハ方集ツテテ收斂ナレバ

口方葉強定ニ大知收歛スル性也 湯飲等

難シヨシ通リテ氣シイテ止スル此イテ経外

ト取ル其イテツチチ葉ノ強定ニテ收歛シテ経

ノ内入テ血トナス也 四物湯ノ血ヲ補是也

経ノ内ヲ流シメク凡血イカニモ弱クトシテ是

ヲソシ此血虚也 四物ノ血ヲ補ハニ経ノ内ヲ

流シメク凡血強クト是ツヤニ流シ流シメク凡

此流シ流シメク凡血中ノ陽気在、如クナシハ

四物ノ血ヲ補ハ向誇也 於此血強クナシハ

流シ流シメク凡血中ノ陽ヲ補ト云

此依古来ヨリ多ク様ノ説有シ此コソ

氣中ノ陰ト云物ナシ此コソ血中ノ陽居物ナ

シト 諸人モ念及スルヤ凡説ノ末イテコソモ

氣ノイテ力ノ潤トナリツ氣中ノ陰ト云血ヲ

流シ流シメク凡血中ノ陽ト云トナシハ経ニ交陽

中有陰陰イテ亦有陽陽イテモ在シテセメ

子念及ニ安テ歎

口陽虚者心経元陽トハ心元根本陽氣

○多ク又西の字に責其水に火トハ責ノ字セムトモ
亦トハハ毛讀メ又因シテ也王トハムトヨシテ
此オツ此記ハ陽虚ニテ火ハ陰テ西の字
元ノ故ハ此西の字ハ火放メ火ヲ責其水
来テ西の字スルテ此法モ亦火ヲ意シ生
スルヤウニスルソ
○補氣薬ト加身附ホト 是補氣薬ヲ
註トシテ其中ハ身頭附子トテ加テ陽ヲ生
スルヤウニヤヨト也

○甚者ニ建ノ正陽散ハ陽虚甚ニ者ハニ
建ノ正陽ニ用ヨト也ニ方ハ補陽ノ劑也其味
抄ニ有
○腎経ニ真陰虚也トハ真水ノ虚也
○多ク性熱責其水ハ此記ハ水ハ陰テ壯
換スルテ其水ヲ来テ換スルテ故
此法モ亦水ヲ意スルヤウニテ此
○以補血薬中加知母黄柏ハ補血薬ヲ註

トシテ割ル知母黄柏ヲ加ヨリ也知母黄柏ハ
火ヲ割シテ氷シタヌク凡葉也地炙十ハ直水
シタヌスヤ辟瘴ハ冬ニ氷以テ炙ク地炙ハ
トヨリ氷ヲサシテ補心也知母黄柏ハ下ニテ
火ツホソ大テ水ツタヌク冬ニ炙ク凡葉也
口或大補陰凡滋陰大補凡ハ此ニテモ
算常要アリトシモ知母黄柏地炙十トメ
口經云諸症シテ撰者取之滋陰ト至真要大論
也言ハ撰者病ニシテ常ツ用テサセトモニクモノ

撰スルハ滋陰ニ取ル也清酒註詳也
口撰スル者取之陽ト此モ在如ク定シ病
撰者葉ツ用テアタムシ此ニクモノ定スルハ陽
虚ニ取ル也清酒註詳也

口所謂水其属トハ属ハ主属凡テツカサト凡ト
云人也言ハ其主属陰虚ト取即陽虚ト取
定テ陰虚トス其陽ツウキ陰ツ取立シハ
表也ソコツ取求コト云ハテ水其属凡也其
属トハ心腎也ト清酒註ニ多ク有書有

口是火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八

口是火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八

口是火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八
火之源以消陰翳下八杯卒陽虛上八

口 氣虛塵甚之軀亦不可一陽虛甚也
記云ノ奉散者ノ滂滂ノ用ニ其ノ奉
散ニテ腰理ヲ開テ表方ノ陽氣泄シテ系
卷ノ滂滂ニテ水液通シテ真氣泄シテ
口 肺者新氣虚而陽虚ノ肺者下ノ理ニク
ラ中ノ云下ノ王海言ク升ク
口 止可用回物ノハ氣虚ハ何陽虚也物テ川
ナトシハ不用居此肺者一編ノ也陽長也陽中
スルノ理ヲ不知故ク
口 止可用回物ノ 血虚ハ何陽虚也回物ノ
用ト一編ノ見メ縁テ今甚ク不用居ハ陽中
ニハ陰長スルノ理ヲ不知故ク下ニテ
打タマフ

口 東垣有曰陽旺ノ旨書辨惑語ノ列ク
如ク陽旺ニハ陰血ヲ生ル居テ故肺者不知
口 此陰陽ノ二字直指氣血言ト上ノ非直指
氣為陽指血為陰居依テ寒細語シテコト
ノヲクマフ

口 血脈之氣在重下 骨書有之如血脈下
 血之不足者之胃ノ氣ヲ是ニテ補降ノ左
 折少マウニル丁古重人ノ法也故血虛者ヲ
 人ニ是ヲ以補之是陽生之ハ陰長スルノ理也
 口 真陰虛者持骨ノ 真陰ハ腎水也而虛骨
 骨極ト病又ハ陰虛火動ハ人ニ是ヲ不可用此
 託ハ天師モ今ニ是ヲ忌ムナリ

口 石能抵骨ノ 抵骨ハ骨ノアキ也言ハ骨極

ノ記ニ多ニ是ヲ用タラズ相書セザルノニ此ハ非也
 病ノ可也惟血虛ノ記ニ多ニ是ヲ忌ム所ハ非也

口 如通者トハ抑揚ノ言ハトテアケテトスマウ也

口 未明此理トハ海言訛ニ通也ニテ辰ヲモ血虛ニ
 多ニ是ヲ用ル理ツサ且明メ不知居ナリ

口 世法病也見虚ノ此ヨリ血愈虚故云
 雜著亦ハ以月海言中云クナリ王海言ハ
 氣血ヲ以テ陰陽ヲ分テ云クナリ故ニ全ク要説
 三書ナリ書ノ理也故醫界正誤ハ海言陰ヲ

多量之氣虛血虛湯虛陰虛之回記方
テ臨牀應変ムヨリ云テ兼ツ云ク解ニ醫類
其外云云ニ随テ凡モ多ク正傳虛損門ニ一ノ
病者ツ舉グ多ク此ニ凡モ誤ニテ彼病人
病不愈迄テ天臣ツツニリクツ天臣此ツ中ニテ
此病人多クツ多用シハコソ今ニテ命トカラフニテ
海言ニモニニ上名ト互ニソニリ左テ中西ニヤリ
ニトヤ紛レハ常ト兼トニテ易誤トモステラシ又
内ニ海言多クホソ甘温ノ藥用ハ病日ニ甚ス服
クニ多クハ死ス不決ナ下云云ク凡モ依リ天臣
アサハカシク多ク相ク此用ルト不用ト本問ニ時
珍亮明ニテ表クツ

口又云血虛誤服多ク此ヨリ陰虛湯云云ニテ
雜著者ナシハアリ

口甘温ハ中氣虚陽陽旺陰虚ノ此オトカ海言
ノ思言也東經カ辨或論ニ云ク仲景ノ人ナト
ニモ天地懸隔ニク

口又海言人者注シ此ヨリ便歸依於陰陽ニテ雜著

○是凡目ヨリ

○清血虚陽血所依トハ陽ニテ陽ハ秋ナシ
陰ハ秋有秋ニ氣ハ秋ナシ血ハ秋有秋故ニ
氣ハ常ニ血ニ依属シテ長レモソク辟暑ハ秋
ト火トノ也火ハ陽ニシテ定シレ秋ナシ秋ハ陰
ニシテ秋有火ハ秋ナシ秋ニ依属シテ長レソ
今夏ニ衰ハ春清血虚而陽ノ依所ナシト也
○是凡目也

○清散秋外多衰換テ血虚ニテ陽ノ依所
ナシヨリ外ニ清散而衰換ス故ニ是四物一ヲ
用テ清血ヲ補テ陽ノ依所ニスレ也此等亦
○是理ニ叶タルナリ

○是乾姜ノ清散ノ陽ノ依所清血ヲコシ
ラ上テモ外ニ清散シテ内ニ入ニ依テ多
乾姜ヲ加テ清散ニテ外換テ内ノ力也也
○味ハ上ニ苦スルヲ故ニ乾姜ヲ加テ苦中味ニシテ
内ノ力也也苦中味ハ下ニ行ク物ハ味ノ行リ
○是凡目ノ行リ有某程制凡ノ如ク可制也

逆流ノノ真ノ即問アリ病ニ從テ流スルツ
口亦戒勿用多逆ノ此ハ天医ノ語也言ハ陽外
浮散スル程ニ多乾姜ヲ加テ從流ニテ流ト
ニテハ云テ亦多逆ヲ用ル所ニ至シ血虛勿
用多逆后クナリトテハ王汝言ヤ末逆ナリ
テコソアシ居心也

口丹溪云產後當以大補元氣
血ヲ補下ノ是トセヨ他託アズ以末流ニ后名
丹溪ノ格言也

口既曰陽無所依ノ王汝言カ產後ノ付
テ陽ニ所依多外溢散スルトニテ云テ多逆ヲ
用ルナクモ忘テリ散失ノ氣ヲ收救セバ多逆
アラズハ中ノ事ナリ也

口汝言ノ語何其甚キヤ
則能生活血后丹溪ノ產後大補氣血后
汝言中云方ハ不左ヤリ也

口膠柱鼓琴ノ語書經アリ醫家録テ云時
一病ノ見ニ取リテ臨機應變ノ人ナクナク云

口以以是ノ手以ハ物ト有スベテ此如
此居ルヲ

口第不害而亦トハ此非ナレトハ天氏是ヲ
辨セシヤウハナシ居ラ也

五 或問古有回診ノ診脈トツ中丸時

ハトリヲ口ムレトヨム診一字時ハ惟ヲ口ム
トヨムセテ診ハコハ口ムレ也

口秋也其脈回ノ難經トハ移レヲ難經ハ

其所欲カ候ヲ問テ病ヲ知レ法家ハ秋ヲ

見テ知レ長ク相此回診ヲ難經依解ハ

回知居ク

口今人惟教脈法ノ切脈ノ可ク教知テ知リ

ニツラモ心タリト也

口又形診者ノ此身リ回診シク候也

口經云形氣不足病氣有余ノ根結篇

東垣經ヲ背書ハハ夕形氣有餘不

足ハカニワヌ病氣有餘不足ニ付テ補

薄ク云々假令取らざるは、又、テモ病の時邪
氣強キハ邪氣勝ヌ記シキホト、厚ク補ハ
要アリ也

口形氣有餘病氣不足、此モ在ノ如ク形氣
ノ有餘ハ、ホカニ又病氣不足ニ付テ補フ云々
ソ假令取ラ強ク之、テモ邪氣不足セハ補
去ル也病氣不足トハ真氣ノ不足也

口不可刺、針ハ真氣ヲ泄ス物ナラホト、不
可刺若刺シテ、フナラハ不足トシ、不足ヲ重スル

ホトニ強死記ト成ルツ辯或論、針ヲ不取用
可刺ツ用ヨホ者ツモセヨトホ物ノ云シク

口空虛空虛、ハ血氣ノ虚、養ハツ以テ之、凡
物ノ血氣ヲテハ、氣空虛トホラガラ、成ルツ

口壯者不濕、一、津液セザルノ与、強ニ其津不
能後言シ、壯者ナキ、如モ老者ハ不云、知ツ

口急浮其弱、弱ナキ虚、實、此ハ陽陽内外、是
有餘、記シキホト、急ニ浮、其弱ヲ後、真氣ノ

虚、實、平、弱、セヨト也、凡、陽、風、直、重、散、

用之流之衰之陳僅一十下用之數也

口有餘者深之不足者神之此之類也此之類
其托根結篇之語也

口亦云肌肉脆介一死一素問之語也候奇
也脾之為物之本之於肌肉之生凡今肉

脆之てやせたり病之假左之脈平和なりは
死之たり也其本ノ脾氣脆之故今時

如根之病之脈之氣為之能之死之
口亦云強者精明一脈需精微論之矣也

之病之府ノ精氣洛頰、結りて七之數之
用之て又后手用之て可之字一之此精明ノ

府也府ノ物ノ集凡所之云
口背胸中府ノ胸、通之凡氣洛背ノ俞、

中、リて有之ノ故、胸中ノ府は脈ノ管は
背ノ俞ト云俞ハ脈氣之通之凡所之也

管ハ靜之凡所之云脈ノ管は脈ノ管ハ測ノ
之也背ノ俞ハ川ノ流ノ之也測ハ寸ノ行ノ

之也寸之脈ノ平之凡所強之測ハ大木ノ寸ノ

今テモ水而動此心。テ背。針ツムサト脈ノヤ
ウハ石立ツ罪人。背ツ唐。テタカヤセ又
モ此心也

口背曲肩。余ノ字先サナリテカサウ又
口胸將壞。上ノ胸中ノ府。府ヲ言ハ背ハ
ハ背ノ經。凡チ凡チ胸中ノ府。凡チ下ノ背肩
由。此ルテナラハ血氣壞シトスル也。凡チ也

口腰者。腎ノ府。腎ノ高ノ推。高ノ表。寸
半。故。脈ハ背ノ府。法。轉。檢ト。ウ。エ。中。ハ。タ。ラ
ク。ナ。石。所。ハ。背ノ氣。失。強。リ。テ。ワ。カ。レ。タ。ト。也

口胃者。脾ノ府。脾ノ中ノ池。脾ノ久。表。立
ツ。ナ。石。所。行。時。ハ。推。按。ト。フ。ル。ウ。ワ。ナ。ク。ハ。脾。ナ
ク。ナ。リ。チ。胃。弱。ナ。故。ク。此。モ。背ノ氣。強。シ。ク。又。タ。ラ

口又。聲。弱。ナ。此。ヨリ。意。ツ。ハ。テ。病。ヲ。知。ル。ク。ラ。云
口經。云。如。泥。室。中。言。ノ。脈。常。弱。微。弱。セ。カ。ウ
シ。ム。口。中。ヨリ。物。ツ。云。勿。ス。ヤ。ウ。混。泥。石。清。ハ

中。凡。ノ。滯。託。セ。居。テ。ク。此。ハ。水。凡。道。上。ノ。候。也
是。今。モ。水。腫。ノ。託。也。混。泥。石。清。者。多。ク。シ

口言の微。紙日画。汚言者奪。凡七一物。シテ
イカニモ。カニシテ。漸ク時存テ。又云。ツカ
云。心也。冬ニク。云。ハカ。カ。云。也。氣
塵。甚。故。色。而。播。績。時。花。矣。守。ト。難。シ。タ
口衣。被。而。歛。ト。ハ。衣。ノ。前。一。後。口。ト。ケ。中。キ。令
口言。詔。一。神。明。ノ。祀。ル。ト。テ。冬。ニ。シ。テ。祀。考。四。病
矣。守。託。也

口叔。和。云。久。病。色。一。一。脈。經。五。アリ。破。色。ヲ
嘶。居。ト。テ。イ。バ。ウ。ト。モ。ウ。ヤ。ナ。ク。氏。云。云。ニ。ゴ。リ。テ。カ

口年。元。色。ソ。腸。氣。有。獲。則。色。高。而。清。ト。テ
腸。損。ノ。託。也。久。病。居。中。經。ノ。色。ナ。病。ト。ハ
嘶。色。有。リ。モ。若。ク。是。也

口少。心。病。忽。作。鴉。色。一。此。類。高。陽。也。脈。訣
ニ。有。リ。也。鴉。色。ハ。何。ト。ヤ。ラ。シ。カ。ワ。キ。テ。潤。ノ。事。也。也
此。モ。腸。損。ノ。託。也

口東。垣。云。言。詔。之。類。脈。を。一。是。ハ。ヨ。ウ。ト。云
カ。ス。ハ。ハ。カ。口。ト。ヒ。ク。中。マ。ウ。ナ。シ。凡。此。丹。ニ。定。ク
タ。カ。ウ。ト。凡。ク。邪。氣。ト。精。氣。ト。ハ。リ。左。テ。高

石トカタハナシクナンソ此外感ノ証也

口言証是重底輕此ハ内傷有是ノ証也故

口言ツト云ハスハ重ケシ凡精氣弱ヲ致

口言カクツナンソ胃書ニ辨証論ツリタソ

口言診者此ヨリ句証ノ五為ツルニテ病ヲ知ん

トツ云

口証云一脈胃精微証也

口赤欲如帛畏碓一帛ハウス中中又碓ヲ

素問ニハ帛ニ作ル同ト少帛ニ帛ヲ以テ又

ルハ紅潤ト赤ク潤テ証也

口赤欲如赭一赭ハ赤也赤クニテ此帛也潤中

口赤ツ如此下、モ多クテ長中ト西中トツ若ク

口白欲如鷺羽一此白矣明潤若多也鷺羽

口石欲如鹽一此ハ白之暗ニ西中若也

口青欲如蒼蘆一此青也明潤若多也

口石欲如藍一此青ニテ沉晦ト潤中若多也

口黃欲如羅畏雄黃一此以有テ証也

羅ハ帛ノ異者ト有テ証也

新帛ニ雄黄ヲマシタレハ洞光有ルヲ

口石粉如黄土ノ其多ク沈滞ニ神リテ血中多ク也

口粉宜滞ノ其重ニテタレハ洞光有ルヲ

口如地蒼ノ蒼黒ニシテ如塵也アツク口多ク也

口又云青如草莖ノ素問五藏生成篇

草莖玉ノ莖ハ草如テ生スル也ト云アツク口多ク

多ク也馬ノ莖ハ草ノ毛ニ似テト云アツク口多ク

多ク也張氏ノ莖ハ紙青ニシテ多深ニ也敗本

賦ス全失紅黄ノ氣ヲ死スル也

口如枳實ノ其黒ニシテ石以多ク也

口如燭ノカワチタレ多ク也

口如鮐魚ノ死血也赤紫ニシテ黒シ

口如枯骨赤死ノ洞中多ク也

口此血多ク見死也其氣内ニ敗老故外

多クアツクシタレ

口青如翠羽ノ此ヨリ下ニ云ヒ知タレ也

體液志同ト其光不有亦膏月ブタレ白ク

口ウレワシ中又鳥羽ヒカリ多ク有ル也

○此五字、く、ん、し、や、此皆、ま、ま、明、洞、芝、新、り、
洞、う、ん、ま、ん、キ、ト、不、死、り、也

○此、心、如、綺、衆、碑、此、ヨリ、の、氣、本、ま、の、新、
ま、つ、見、ス、云、綺、の、素、ヲ、中、み、也、素、帛、帛、衣、ま

○ツ、物、ツ、ツ、こ、タ、ん、ハ、外、白、ク、シ、テ、内、カ、ク、レ、テ、
皆、新、ま、つ、の、氣、中、に、是、テ、外、ニ、テ、ウ、ワ、ル、放

○外、學、也、后、外、學、ハ、王、經、義、ま、也、ト、ア、ん、
欲、能、五、為、し、わ、新、此、ヨリ、衣、の、ま、付、テ、ま、新

○ノ、中、ニ、ウ、ツ、セ、ン、ツ、午、ラ、ハ、四、時、ノ、事、為、ン、以、テ、辨
口、難、云、從、前、也、者、此、ヨリ、子、初、令、母、實、法

○三、テ、七、ノ、難、ノ、文、也、從、前、也、者、ハ、其、ノ、以、テ、
云、ハ、牛、ノ、為、火、ハ、子、也、子、ヨリ、母、ノ、方、ハ、其、ハ、

○依、テ、從、前、也、者、
口、從、後、也、者、此、ヨリ、本、難、自、借、后、也、テ、中

○難、ノ、文、也、從、後、也、者、ト、ハ、名、シ、ク、云、水、ノ、為、
布、ハ、子、也、母、ヨリ、子、ノ、方、ハ、其、ハ、依、テ、從、後、也

○后、也、从、ト、下、ノ、假、名、后、也、并、新、み、ん、亦、ト、見、右
セ、テ、新、決、リ、

口假令身令本旺病者一此ヨリ在テク叙ル
口青而赤是為實邪トハ前ヨリ赤子然
令母實也火カ布、赤儿布也、火カ布ト、前
ヨリ赤儿法相也、此儿故、易流ノ

口法云、痿流ノ法云ト云、此也

口實者浮其子トハ、中儿雜ノ文也、俗解、肝
實可浮、四而損其肝、子是ナリ

口其矣青而赤、是為實邪、法ヨリ赤母也

令子虛也、水カ布、水カ布、水カ布、水カ布ト

後ヨリ赤儿法、此也、相也、此也、易流

口虛者補其母、此也、中儿雜、俗解、肝虛可
補、腎而益其肝、是ナリ

口其矣青而赤、是為實、所解ヨリ、赤儿為

微邪、書、宋又位、布、此也、赤布、此也、布ト

微邪、ト、此也、易流、此也、字、雜也、實邪、此也、虛

邪、此也、此也、此也、此也、此也、此也、此也、此也

口微者、道、此也、素問、文也、醫書、此也、人、此

此也、人事、日用、此也、此也、此也、此也、此也、此也

燒ルノ水滲ハケキクノ好ニ其性凡ニ付テ是
る汝ヨリ云素問ハ君臣依便ノ下ク云テ
其下ニ諸病付テ滲流互流テ、微者逆
ク反テ正流ノ下也物凡ク方臣家ニ付テ
下ト也六部ノ下素問ハ下ニ難經ハ下云ク
下ノ六部ノ所、微者逆クノ句ヲ以テ用ルハ所
口其多青や赤や白ノ難流此ハ金虎本ナ
布ニ金カ赤ル相克花放難流ハ如難流ノ如ク大
化ハ死スル也

口甚者滲ス、此ニ素問ノ文也、難經云如
ク物凡ハ人事日用ノ下ハ各別也、水ハ下
モユルノ故、水ツ以テケス下ハ下ナレト、考
ニ交テ因中ツ以テ逆志ル、此ノ滲流互流
トモ云フ、難經ハ、物凡ノ下ニ云、神皓ノ
物ノ下ヨリハ、下トリニシク下ナラ、又時ニ太陽
一照也、火自出、物凡ニ此滲水、則、難經ハ、則
難經ノ難也、有、物凡ノ下、用ル、下也、凡
品ノ有ル、下、此ニ、物凡ノ下、付テ云ク、下、下、下

中ノ天臣ノ以月矣下如何從素問ノ心ノ部
ノ一ニ云ルニ故ノ以月夕歟

口青而和若然璧ノ此ハ其候ノ中ニ云ルニリ也

口四時皆微ノ此君射下肝ノ一氣ノ象ナ

ノ今時余氣ニ如此推之ヨリ也

口紅多為若ノ四時通例云又ノ紅多ハ

陽氣之潤多ナク也故云氣四時リ也若

口青思為也ノ此ハ陰氣ニテ為多也今時ニ青

思ノ人病多ク

口要訣也學者ノ肝要訣定丸中ノ學者思

スル下ナシ也心ノ秋色多クニハ云テ脈ノ

ノ不云ハ在云今人効脈法知其一遺其

故ニ家ノ脈ヲ不云

六 或問傷寒之邪中人固皆定傳ノ始大

陽經中ノ陽明也陽下傳于陰經左有

亦直陰經中ニモ有此定傳也相ノ冬

生邪中ノ邪病ヲ正傷寒ニ云ル所病

云仲景麻黃桂枝此証乃為制大冬
定之中下印而病者。至于病之溫病法
其。至于病之熱病法。亦。法。云。理。在。九
味。易。法。此。乾。為。制。大。而。正。之。氣。有。于
一。鄉。之。長。幼。皆。同。病。之。後。病。且。大。病。謬。在。右
同。乾。都。于。湯。定。下。謬。之。多。相。定。之。中。下。印。病
理。六。才。工。上。之。乃。各。日。之。者。其。其。于。此。病。之。了
凡。理。不。寓。也。又。又。之。其。理。不。強。之。乾。之
口。於。年。是。者。有。之。經。之。十。十。年。之。經。是。之。經

二六十一經此也

口。此。是。之。之。經。而。不。及。於。身。之。之。經。之。是。之。大
陽。膽。能。經。日。之。始。于。陽。明。少。陽。太。陰。少。陰
厥。陰。皆。以。下。系。同。之。有
口。劉。宗。室。謂。是。之。經。屬。水。出。本。之。是。之
大。湯。膽。能。定。水。陽。明。胃。之。少。陽。膽。木。大
陰。脾。土。少。陰。腎。水。厥。陰。肝。木。此。是。之。之
經。水。出。本。屬。之。也
口。水。得。定。則。冰。出。得。定。則。垢。本。得。定。則

人秘之開クテホク多ク傷定之書ハワリ
多ク是ノ經ヲ傷テ中ノ經ハ石傷后ノ可也
傷是經而石傷中ノ經后ハ石也。リテ中ノ經
心ノ傷ハ同赤辰焦之乾肺經。傷ハ氣
逆而喘スル也。亦仲景ノ麻黄ノ桂枝ノハ
心歸ノ業也。此中ノ經。傷ハ板也。長ク病ス
ニ麻黄桂枝ノ二湯ハ神矣。用ハ是也。傷ハ
中ノ經ヲ傷リタル註。用ハ似タル中ノ經
傷タルハ板也。註也。麻黄桂枝ノ二湯用ガタ
中ノ似タル中ノ書。中ノ經ヲ石傷后ハ可也。中
ノ經。石傷后ハ石也。后ノ病ハ富也。
亦亂經。之傷定ハ病中ノ大也。注也。
層達ハ死生又書事リテ多ク。其明アリ。亦中
ノ經。石傷后ハ中ノ富ノ書也。リテ中ノ經。傷
タル病也。トモ。一ノ書事リテ此ニ。板也。中ノ經。
傷タル病也。考リテハ。定ノ傷タル註。テ中ノ
傷ノ傷タル註。也。也。中ノ富。也。金ト書。十九。注也。
石傷ト云云。如何。様々。様々。所ハ。定也。富

問てテ汝に事也

○陳一得如地ノ前漢書、智者千慮必有

一失愚者千慮亦有一得之云民早下言

○蓋今有力項天履地ト云人ノ頂天履

地中、去テ長ルヲ故、云云

○力事之上、一人力中、至貴、要ヲ請玉註、

胸ヲサス亦云托ノ元ヲモ、中ノ階、下ルヲ

○云、神多、氣風、機ノ風機、云云、氣也、高ク

○云、行ク、地、凡、故、云、氣ノ至、凡、力、事、上、

○云、凡、

○下、伴、多、感、寧、湛、一、寧、湛、ハ、地、氣、也、早、地

○行、ク、地、凡、故、地、氣、至、凡、力、事、下、感、凡、

○為、六、部、ノ、氣、一、神、氣、ヨリ、流、レ、氣、ニ、テ、

○前、ニ、氣、ノ、時、一、神、氣、所、從、風、本、二、氣

○少、陰、表、裏、之、ノ、氣、少、陽、相、火、此、之、氣、向、

○考、ヨリ、其、一、テ、也、故、氣、結、浮、シ、テ、万、物、生、長

○元、ノ、人、力、ノ、氣、を、此、ノ、應、シ、テ、結、浮、ス、其、シ、

○力、事、上、ノ、應、ク、云

口後之氣ノ内ノ氣方降濕土ノ氣陽明
燥金流ノ氣太陽寒水此ノ氣ノ方ハ秋也
也故ノ氣降所スル故ノ物收氣在也
氣モ此ノ應々降所スル也其シテ方中ノ下
應々法

口自十月小至ノ後ノ十月中小至ヨリ迄
三テ方降寒水ノ旺分ニテ寒令盛ニ行ル
其シテ用事法

口房常事表一人ノ此ヨリ定形ノ人ニ中
云房常事表一人ノ内ノ氣弱中物

口寒水氣寒氣ノ内ノ氣弱中物
氣弱中物ニ同氣相表テ是ノ方降
入ルテ也其シテ寒ノ方中物也

口亦云燥之氣有而寒之氣是ノ此
ニハト也此寒ノ下体ニ中
變シテ上体ニ中ト云テ下ノ

口定形常事表一人ノ定形方降
ヨリ中トシテ表ノ方降ト行テ

陰ノ經及ノ其ノ高ニテ其ノ散ニテ陰ヲ入
陽ノ經及ノ其ノ高ニテ其ノ散ニテ陰ヲ入

口清從是經清而漸及於中其經而色如此

及不而色ト云々年ノ經ニ清ニ凡ク身ヲ細ニ而云

ハ身中意ノ言實ハ不於ト云々ハ如相遠然然

一得ヲ陰凡居左右歟

口身力配在正此一人者受正此中氣也故

云身之府亦行正氣相同也此於凡ノ不期也

於凡ト云也此理ヨリ外ハ疑ト申ト也

七口或問之焦為府有以心包經為焦者

素問血氣形志篇之焦ヲ為府心包經ヲ

為焦十一經ト云人河石也然何業從

之王冰丹溪トハ之焦ハト有テハ心包經

ニ合ニ下ニ有テハ命門ニ合スト之考云云

同云

口脈訣云 諸候入式部ニ之焦ニ故宜

有名寄在胸中膈ト云々

口或謂之焦亦心包經皆有也

二十の難云向空子之焦為表裏以須有名
安故亦之八難云之焦有原氣別至
持論氣有名之秋之云云

口或謂心包絡及胸中脂膜一脂膜上胸
中一油也此二陳也擇之固方一執也

口亦或謂之鬼心之肉一赤心包絡之心
之也膜上層也凡云云

口凡此諸論不一其孰非一如此諸論區
之也下之是非之說承必之問也

口云其理蘊奧甚矣難言一又臣之云也
言八問五ノ所ノ理蘊奧トツニカサ子
シクフ中中故委ク云カタ中中も子浩然
之氣ノ問フ難云ト答云フ有
口雖於表又天人一理也其理深クシテ云
カタ之凡天人一理ナルヲ不明知ハ誠ノ難
者ト云レシト亦ト云其校既ホト左界ノ云
ホル一如虎ト也

口凡萬物有氣質一有象應于天用

之息。取了幾下人。コレ也也

○有木火水金土。在。初。始。實。有。于。地。著。凡。ル。ト。云。物。也。地。ハ。ウ。ノ。氣。有。シ。ハ。其。象。以。定。暑。ハ。立。氣。見。ク。也。

○風。撰。濕。從。下。在。有。象。應。天。居。也。

○蓋。人。肖。天。死。下。其。祀。邪。家。篇。天。有。日。

月。人。有。每。日。下。天。下。人。下。對。待。下。下。委。ク。云。

テ。有。

○六。氣。有。府。下。人。ノ。氣。有。府。ノ。身。ニ。與。シ。テ。

一。力。ノ。立。ウ。ト。云。地。ノ。行。古。氣。カ。シ。成。シ。テ。造。

代。ノ。行。ウ。下。符。其。ウ。合。凡。如。ク。ウ。モ。不。造。也。

○是。符。在。天。為。凡。在。地。下。此。ヨリ。下。陰。陽。

應。象。語。ノ。云。ク。天。ノ。古。氣。下。地。ノ。行。

ト。人。力。六。氣。有。府。ト。云。ウ。ク。左。セ。テ。リ。セ。テ。ウ。

○五。者。外。有。相。與。遊。行。天。地。下。下。凡。冥。中。

六。行。外。相。與。有。于。天。地。陰。陽。ノ。氣。下。下。凡。

其。付。相。與。遊。行。在。下。ウ。

○故。合。為。之。道。之。氣。下。行。之。道。在。相。三。

火有ん終。亦氣中凡此の運去氣打有る地
ノ合乃り。依テ之ヲ事死也。亦スルヲ

口膻子。一弟子云。猶言。延穀於六也。是也。

口膻膜。一在傳。病二月ノ下。有上云。冬月

ノ一也。之胸。一ツ其膻膜ヨリ。一ト下。ト相

火。遊乃凡。依テ在之。焦后。心也。トハト下。

ノニツ。相火。遊乃天比。ト下。氣交。中ト膻

子。内膻膜。ノ乃ツ人。力ノ相火。遊乃凡ト同

ニ。福ナレ。終。亦在。其。亦。府。后。多。

口丹。漢云。天非此。火。而。生。物。今。一。格。致。相。火。論。

ニ。アリ。言。ハ。此。相。火。ハ。ナク。テ。亦。時。也。表。五。比。相。火。

ナク。ハ。此。言。ノ。時。言。事。亦。以。格。果。一。ツ。人。力。ニ。天。

相。火。アル。故。至。中。立。テ。死。シ。明。シ。テ。不。死。也。

以上。此。ニ。テ。天。人。同。居。リ。ツ。本。オ。カ。セ。多。在。天。人。

ノ。理。不。明。可。謂。難。事。凡。夕。所。ヲ。膻。膜。ニ。ク。ナ。

口内。經。以。心。包。絡。為。系。配。在。心。焦。而。為。心。氣。云。

府。總。十二。經。一。此。ハ。同。者。ニ。ツ。心。焦。ノ。為。府。

心。包。絡。ヲ。為。心。焦。者。アリ。后。夕。亦。ツ。凡。也。表。六。同。

者ノラ流丁コヤシ即内經ニ如此有ツト云是也
おふツ云中カセタツね此或問一凡ハ問者ノ問文
所ツ一、おふツ若タト見レハ所源ハ内經
骨書ニ馬ノ註アリ可ク人

口其每骨本為一氣ノ内經ハ骨一氣ニテ左骨
右骨不カソ

口即人始分ク示東背言為相火ノ氣
此ハ問者ガ以命門為氣者アリ居亦ツ若レ也
言ハ每骨本内經ハ一氣ナリ即人ニテ左骨

ニ始テ左ツ骨トシ右ツ命門ト命門命門ハ其
氣骨ト通ス居テ命門ツ相火ノ氣トハ不云ト
云ツツ問者ノ命門ツ為氣者アリト云多ク此誤
人ヤ命門ツ云云ヨリ云命門ト云ト此モ亦
ツホスソ

口王叔和始立氣以之焦命門為表裏表裏有
源之富事ノ富ハヤト凡トヨムツ言ニ左半ヨリ
右半ニツリ脈經ニ以之焦命門居テ有也
正氣ニテハツレ脈經中七ニ心包絡トニ焦トツ

表裏云フトテツキリト云定テ亦二卷ニ一説ニ云トシ
テ命門トニ焦ト命スト等々ナクヤ也。其等々居ニ越
人等皆ツ命テ命門ツ立至又テ命門ヲ格一説
ニ云ト等々ナクハ命門ノ本意ニ非ルニ似たり
此等ノ説ツ天臣カ家ニ引クハ誤也ト請叙ス
人モアリ然レ其民非誤天臣モ家ツ別
之至タルニ依テ在ニ内經ノ説ツ命門ニ焦心也
經合十二經スルツト云此ハ周者カ命門ツ為氣
者有居ツ所ツ靜シテ之焦ツ命門ニ命スルニ深
之有却人モ命門ツ云々程ニ命門カ云々也
理アリト其命門ツ名ルキト云天臣誤ニテ中レ也
周者ノ云々ツ一ニ命テ云靜スルト命スルツレシ
ハ命門ニ居ハ此等ノ一也

口命門者雖為水為實為相火、所寓地、
命門ハ水為ニテ中ニ相火有レテ云相火寓ス
トハ水中ニ火ツクニテ有レテ命元氣也
口其意トハ命門ツ格テ云
口左屬陽右屬陰ト陰ノ字陽ニナラシテ命門

十部或は為浪右為陽トアリ

口 静守常而主水動ノ 静は水ノ常也故ニ
水ノ位ニ居ルヲ動スルハ水ノ常也故ニ水化シテ火ト
在ル水ノ火ニ在ルヲ移カドノヤウナレバ水ノ火ニ合テ
有祐也下ニテオコエルツ

口 相火ノ定体トモモ下ニモ有程ニ定体也
口 肝膽を絡ム間ノ相火トモ有レ時ノ肝膽
心包絡ノ有レ也

口 於火孔躍ニ霄漢ノ
相火トモ動スル聲也於火起リ於霄漢ノ雷
霆トモ鳴リニカクワズル

口 富干每骨間ノ相火トモ有レ時ノ每骨ノ間
有ル水ノ火トモ有ルツクニ居ルツ
口 於火鼓聲ノ湖海ノ鼓聲ハ易ノ字也ツク
ツ打聲トモ有ルハツクリサメツク也言ハ相火トモ

有骨ノ有ルハ聲ハ於火水ノ動ニテ
湖海ノ有ルツクリサメツクテ故トアグレヤウチ物
ツト云ル也海ノ風ナクテ故ト云ル有レ此

心也云此心下ニ如此眼前ノ證候有ルニ依テ叙
和令門ノ心焦ニ在ル深き此也令門ノ心焦
在ルノ異類ナリト云エ凡如此深き有テノ類ニ云ト
云テ脈經ニセ多ク云云其深き有テノ類ニ云テ
同者ニ云クナリ

口或云膏岡力有府ノ有府府ノ字ノイナ
同サテ下ニテ云クナリ府ノ字也云ハクテハ物ヲ入
納ル物也云府ノ其ノ心ノ官有テ入納ル物
有今ノ心焦ノ府ハ何物ヲ入ルツト同也

口云ニ焦者指臆子而云ノ此ヨリニ焦ニ兼テ府ノ
如ク物ヲ受ル居テクモ云也

口包羅腸胃ノ羅ハツクムトモヨム
云ハニ焦ハ臆子ヲ指スルテ也力ヲ云フ故ニ腸
胃兼テク一ツニヒツカラケテ入納ニ總ノ目也

口胸中ノ膏膜ニ云ニ焦ノ此ヨリ一カヲ包羅
スル總ノ目也云クテ油ノ類ニテ云スノ

口此散受年ノト云ク下焦ニカラテ居ルモク
受ル所ナリト云クヤ受納ラコソ居ル心也

口其伴有脂膜在腔子し内トハ此ニ焦ノ伴
腔子ノ腔子内ニ脂膜ア凡ハツラ内ハツラ
地ノ腔子内ニラ也脂膜ハ内バツラ也此ニ焦ハツラ
ノ内バツラヤウナ地ニテ百物ツラノ内ニ又油ヲ加
テ其内府ツラノ羅ニテ居ルツラトハ此ニ焦ヲ府ト
云子細ツラニテ云同ク多敷羅ニテ此ニ焦ノ説大
畧可也脂膜居ラテ不可也

口其心包絡者實思心ノ膜ハ肉内ノ房
以也此ヨリ心包絡ノ伴ツラ云心ヨリミツケテ一寸ハ

從テ中心トシテ心ノ房ツラ受テ又ヤウニツラニテアツ

存其アツラノ膜也

心ヨリミツケテ一寸ハ言程ク中心トシテ有也心包絡也ニ焦ノイゲト行ナシテ

口其系外ニ焦ニ系ニ屬故相欠

心ニ焦ニミツケテ此ツラニ屬故

心包絡ノ伴ツラト胸ツラ有也ツラニ定テ地ヲ其心包絡

ノ伴ツラトニ焦ノ經トニ屬シテツラニ係テ相欠

心包絡ノ伴ツラトニ焦ノ經トニ屬シテツラニ係テ相欠

心包絡ノ伴ツラトニ焦ノ經トニ屬シテツラニ係テ相欠

心包絡ノ伴ツラトニ焦ノ經トニ屬シテツラニ係テ相欠

心包絡ノ伴ツラトニ焦ノ經トニ屬シテツラニ係テ相欠

心包絡ノ伴ツラトニ焦ノ經トニ屬シテツラニ係テ相欠

位臣在胞膜以厚于同者ノ間カケタツル也

口此知始而末知終此或同在ハ同者ノ間ヲ一ヨ

是多ヲ非知終ヲ中ニテ論説ノ器ニナルヲ深着

ハセ又ノ甚しくノ説ノ初末ノ始中ヲ云テ終リノ

為ワ中ハ有云ニ依テ此知始而末知終以テ此句

如此之テ終スルヲ

口展轉ノ色詩ニモ註有豪ハ漢書ノ註終リ

長ハ在ノ説凡カ我知此其象ノ説ニニテ

有レ長其レの沿展轉ト云リモテエテテ終説ノ

説ノレ也セテ天函在ニ云連ク凡管足ノ内ツカ

レカ王ヨト下ノ心也

口顯珠表レ也アツクトヨム字書ニ仰ト字訓ス

形ニ在レ象ニシテ云

口之焦 為府ト肌肉トノ間氣ト下靴ト結滯

ス凡空所有此ニ焦也此空所ツイケケムリ如

クメクハ火ノ象ナレ故焦也

口心包絡心ハ中火ニ属シテ運動ス凡故ニ心血

ヨリケムリノ如クイケテ立テ心外一寸心方般ノ

干しくトシテ心ツ包こテ邪ツウケサセズ此心包
絡也之焦ヨリ結んテ同氣先結ハツ心包
絡ニツクツ結之焦心包絡合ス辰素同ノ説此
也即人河名也何業從之

口常門 胃中温暖ノイテ在ノ方、結ん結ニ在
ツ常門辰素之常門ハ水中ノ氣也常門ノイ
ケ結リテ水穀ヲ化シテ之焦ノイテ充海也
結ハ之焦ノイテノ初ハ常門也其イテノ海ハ
此所ハ心包絡也故ニ之焦常門合ス辰素同ノ説

之此也亦王冰丹溪天氏之焦ハ之有テハ心
包絡ニ在シ下ニ有テハ常門ニ合ス辰素同ノ説何
モ理ハ一致也

之焦心包絡。 秋アリ辰ハ其イテノイテ見
レハ秋アリ也。 之秋辰ハ余氣ノ如クハノイテツ
オリト秋ナキツコト云々。 之秋結ハ之秋辰テモ
有秋辰テモ可也之因方。 之焦ノ秋常ノオリト
云亦馬氏饒録ノ年正ク之焦ノ秋ラズク
后ハ異ノ説也張女賓祇有辰ハ當時ノ人

論。此礼下。心均。元偏。之救。之。之。也。有。礼。證。
批。本。考。篇。引。之。其。し。要。カ。ツ。キ。下。所。有。ト。
云。非。ス。イ。テ。ノ。多。少。云。ク。フ。云。其。云。也。
口。亦。余。氣。の。所。如。ク。取。了。ん。故。之。凡。ノ。如。ク。經。子。
り。之。焦。包。終。ハ。凡。如。ク。取。了。ん。故。之。凡。ノ。如。ク。
經。子。ハ。不。當。也。故。は。經。ハ。イ。テ。ト。ウ。レ。シ。ク。
ト。メ。ウ。レ。所。也。之。焦。包。終。モ。イ。テ。ア。レ。キ。ト。
イ。テ。レ。所。ハ。ウ。レ。シ。ク。モ。為。事。ス。レ。道。理。
也。故。經。ア。リ。命。門。之。經。子。ハ。精。ノ。温。暖。
が。命。門。也。其。氣。イ。ニ。夕。腎。ニ。ア。レ。時。ハ。水。ニ。シ。
手。腎。也。故。ハ。イ。マ。之。焦。也。故。命。門。之。經。
子。は。亦。以。經。ノ。之。焦。ト。云。命。門。ニ。モ。シ。リ。
如。レ。ク。諸。人。腎。間。向。ノ。字。ヲ。究。明。シ。テ。衣。
腎。命。門。居。立。ス。レ。ト。凡。人。ノ。非。所。居。也。

八
命。門。東。經。用。藥。多。以。桂。陽。是。胃。ト。云。
脾胃。論。是。胃。指。陽。ノ。指。陽。神。氣。ノ。神。中。是。
氣。ノ。十。十。銘。ヲ。行。テ。其。言。中。活。指。是。紫。初。ヲ。

他便薬ニ在理ノ間ナリ

口云又云此は時令暑熱ノ暑熱ノ陽ノ主レ
時令先ニ滋テ其氣始溶ルルノ旨テ見レハ
昔ノ氣ハ始リ暑ノ氣ハ溶リ始リ物氣生
レ秋冬ノ氣降沈ルル始リ物霜殺トナシ
ホムフ眼病ニ見ナリ
口内中ニ此ノ在アリ
口欲便胃氣温而始溶リ胃ノ氣ハ人ノ身
シテテ治膚合肉ノ旨ニテ不至始新ナリ

故ニ温ニシテ始レメクラスマウニシテヨウノ言ハ天
地モ暑熱ノ氣始溶ニテ万物生ルレ也其如
ク胃ノ氣ヲ始溶リ也テ一ガ身生ルレ也此レ
ヤウニシテヨウ居レ也畢竟言ハ人ノ身始
ハ暑熱ノ氣始溶リ也テ秋冬ノ氣降沈
シ不始居レ也
口亦始レ始レ清氣始溶リ始レ陽明經ノ
氣也始レ在リヨリイケツ始レ也此レ初ハ少
陽膽經ノ氣也始レ在リヨリイケツ始レ也脾胃

諸病常氣鬱氣流氣居之皆胃之氣鬱也
后脾胃氣多則氣如城然凡氣之入也其氣
皆初之氣也其在胃之清氣之上脈結也
脈ヨリ諸病、各存之皮膚者因之通微也
也于一身之中、右之清氣也、此氣之入也
便業、用之、多、少、法、也

口燥之清氣在下則生痰涎濁氣在口

鼻間流涕者象諸一主熱、其氣在下則
穀不化、其痰涎之氣在上則氣不聚、其膜

脹、其氣之清氣也、濁氣之在氣口之者

為之難、其清氣之主、濁氣之主、今五之在下則

生痰涎者、其清氣之主、濁氣之主、濁氣之主

今五之在上則生痰涎者、其清氣之主、濁氣之主、張氏ノ

註、其清氣之主、濁氣之主、濁氣之主、濁氣之主

為痰涎之清氣之主、濁氣之主、濁氣之主、濁氣之主

故、其清氣之主、濁氣之主、濁氣之主、濁氣之主

口上之氣、其清氣之主、濁氣之主、濁氣之主、濁氣之主

氣結、其清氣之主、濁氣之主、濁氣之主、濁氣之主

テ句ヲ終テリ後ニ掃葉ヲ以テ胃ノ氣ヲ掃ル
后例ニ經ノ支ヲ以テ胃ノ氣ヲ掃ル
或ハハ叶歟而註掃葉ニテ胃ノ氣ヲ掃ル
カヤ一カヤノ各ヲ以テ胃ノ氣ヲ掃ル
或ハハ叶歟而註掃葉ニテ胃ノ氣ヲ掃ル
又考述ニ補劑治ノ一カヤノ各ヲ以テ胃ノ氣ヲ掃ル
紫ヲ以テ掃葉ヲ以テ經絡肌表ニテヤリテ滋補
也也此子細ヲ以テ掃葉ヲ以テ胃ノ氣ヲ掃ル
掃葉ヲ依便葉トシテ用ルト云々也

口部長中經ノ於此ノ下ノオコエカクハカヤノ也
口尖傾西ノ陽氣ヲ掃ル此陰陽ノ一陰陽ノ象
大經ノ支ノ西ノ下ノ有ルヲ考ルハ傾西ノ下ノ云
カヤノ支ノ西ノ下ノ有ルニ依テ陽氣ヲ掃ル
カヤノ下ニ掃葉ニテ掃ル此法ニ依テカヤノ
カヤノ陽經ノ下ノ有ルニ依テ胃ノ氣ヲ掃ル
口云此ノ海東ノ支ノ氣ヲ掃ル此ノ地ニキリテ
云云ハ此ノ東ノ支ノ氣ヲ掃ル此ノ地ニキリテ
此ノ支ノ人ノ胃ノ氣ヲ掃ル此ノ地ニキリテ

此法者如后也地而海者自也凡而海不地
シヨテ其理ヲ人ニ及シテ下ニテ云云同ソ
口故脾胃氣不和ノ者自也地凡下海スルヨリ
今脾胃ノ氣モ下海スルト對峙シテ云フ
口上腕而通穀凡而海ノト上腕ノ胸ノ上
寸胃ノ上口也而通也凡下海ノ絶而通
絶而通也凡絶而通也凡下海ノ絶而通
胃氣弱クシテ運化ノ弱也

口玉利者自也凡此者凡ノ意也凡下海スル
理ノ云云凡下ノ可如如如如如如如如如如
胃書中云云凡可如如如如如如如如如如
口学者不可不知此也凡下海ノ意也凡下海ノ意也

凡
口或同凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡
胸中凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡
病記モ明白ニ虚損凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡
凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡

セヌシテ醫ノ枝實ニクテ術ノツキルコトアリヤ
託クハ何ト云ハツテトクハ何也

口此蓋湯氣在上ノ此ハト云ハツテ臨臨應象
論ノ語也表ハ固者ノ云所ノ託ハ湯氣在上湯
氣上ノ所ハ所結ト云有湯氣上ノ所
葉氣上ノ相招フセウテ固固スルコト
コソ用操有シ伝テトニテ云フ

口何割結トハ何ニ浸シテツルコト結葉ツ何割
スルコトハ何カツ結テ上結ノカツ蓋スル葉結

紫ハ性寒也結ニ定毒ヲ七割セコカフ

口直抵下焦トハ附子ノカツ以テ下焦ニ至
ラズルコト表ハ初ノ名ニテハ補劑胸ニツキ至
テ不道ニ依テ結葉ツ何割ニ附子ツ加エ
クニ此ツ是コトニテ用シハ葉氣胸ニツキカ
ルト云ハハ湯葉附子ニツツシラセテ下焦ニ
何ノカニツモナクツト至テサテ下ニ有レ湯
氣ヲ結葉中葉割ツシテト、結シハ湯氣ニ
ホコラエスニテト降スル、依テ胸中ツツク

如此云々之實ノ虚記。用テ海内ノ風ノ中ノ
ト云云也

口字者其前所引ノ如林ノ術ヲ不知。雖不
二矣。テ有也ト也

Handwritten notes in cursive script, mostly illegible due to fading.

或曰六淫ノ邪。當從内証。以臨臨。應象大
論。風寒暑濕燥火。此六氣ノ大過。凡所可
去。陰ト又此正氣。凡一ノ醫。和者ノ平候。若
此。臨臨。凡多晦明。居ハ何トシテ。トト問也。

醫和ト是ノ言。肯書ニアリ

口云。雖雖。異多。理。宜。同ト。言ハ。醫和。若ト。内
証ト。辭。意。先。凡。理ハ。同シト也。ト。テ。委ク云フ
口。初。謂。臨。臨。一。故。ト。此。傳。ト。扶。大。臨。臨。杜。預
中。註。臨。テ。イ。ス。ク。凡。ト。ヨ。シ。ト。在。傳。臨。臨。シ。ハ
是。夜。不。居。ハ。醫。和。大。臨。臨。水。大。三。ニ。テ。夜
凡。居。ト。同。シ。ト。ニ。テ。コ。ソ。ア。シ。ト。合。テ。云。テ。亦。ト。下
者。在。傳。ノ。臨。臨。凡。多。晦。明。ト。内。証。風。寒。暑
濕。燥。火。ト。打。合。セ。テ。同。シ。テ。居。フ。ト。云。

口東夜トハ未トハ在信ト曰クト註ス右氣ト是ニ地
信註アルソ信臨風本ノ合カト云ルニ信リ曰ク也
夫ヨリウダク等ノ夜スル信リヨリ

口信夜トハ信下ル病リヨリ右臨臨出ノカト云ルニ
信テ信中下ルソ

口晦淫或夜トハ信杜預註：晦ハ夜也為夜
寢思驚或礼スト云云ハ夜極テ淫礼ナシハ
或夜スト云ハ晋侯女室ニ也中人見ニ信テ其
婚礼ヲ戒ト為ニ云ク「ソ」物ニシ此本云テソ不知

天氏夜夜トナラズ了不前也

口明淫四夜トハ杜註：明ニ晝也思ニ晝多心学
也夜トアリ言ハ晝ニ方ハ思ニ晝名別ノ「」多ク
ニヨリ方ニテ心ノ夜スト云ク也物ニソ方遠目長史ノ
合カト云テ心ノ夜スト此ニテハ信ノ六淫ト醫家ノ
カ凡大トトツ右ト云ク

口彼此固昭有ニ信ハ在信此ハ天氏ノ云合昭有
トハハニ「」リソ合ク始クトワクリト右クヨリ

口晦淫或夜トハ明淫四夜トナラズ此ニツハ遠ク

日歳金大と標令大は乃ハ此ヨリ晦淫或夜辰
四字ノ註ノ歳令ハ陽明標令ノ也辰ヲ

日久晴而每多埃ノ陽明標令大と之ノ先ハ

依テ久シク晴レテ每多埃ノ天此中ウケテ莫ク

ホツリ中宣ニ立ソホコリ立ツニ依リ日モウケテ

明ク矣凡ソ明ク矣ニヨリ晦淫辰ノト云アテマヤ

ハ為夜房ハ夜山光瘴氣是也トハ天臣ノ道ハ

標令大ハ乃シテ久而每多埃宣ニ立時ハ日月

モ明クシカサルハ此ニウケル時莫クハ夜初ヤルハ

物ハ此氣ハ則山光瘴氣辰ノカ是也辰ノ

如此ノ時方ハ夜初ノ辰ノ何トモシシヌク系

標令ノ括シテ山光瘴氣是也辰ノ何トモシシヌ

トフ似此ハ天此ハ天臣ノ註ニテ凡ソ山光ノ

瘴氣トハ濕氣ノ天用ノ註書ニ煙瘴ノ辰

瘴氣ノ辰山ノ瘴氣辰云リ洛濕ノ辰

トフ物ハ今標令ノ氣ハ山光ノ瘴氣是也辰

不富也亦或之瘴トナスト天此ハ梅ニハ或

夜ハ辰ノ晋侯女室ニ此トナレトハ乃ハ

ノイフ云々カシテ古陰ノイテモ悔淫ヲ詮ニ云テ婦礼ヲ
却老本テシテ不知シテ歎チ凡ノ理ニ強ク在テテ
シテ中夜病ナリト直スリ天民ノ語ナリト
○君火大ニ換令チ乃トハ此ヨリ明淫心疾ヲ詮
ツ云フ

口云明ノトハ高ノ自字ノ動也火ハ外明ナル物ヲ
故ニ此令大ニ云ルヲ明淫居ツト云フ
○天明則日月不明ノトハ素問ノ云ハ天ハ元氣
明トハ其徳ヲカクシテ疾ルヲ為天ノ徳ヲ闕テ明

スレハ日月ノ光ハナクナルヲ居ル也此句ヲ此風ハ日月
光ニモナクナルヲ云疾ノ意ハ天明ナル居テ明
淫令也日月不明居テ心ノ疾ス居令也此風
ノ辨有書ニマアリ明淫ハ火令ノ云レ所此天明也
心ハ火令ハ同凡相染テ心ノ疾ス此日月ノ光ナリ
トレ所此云疾ノ意也

口考方至由海ノ二月申ヨリ六月申ニテ此君換令
ニテ此レハ日月ノ光ヲ疾ノ疾スレ也
○有叙ノ一在俗社類カ註叙ツ持テ云社類ハ

丸散
丸散ノ事ニシテ知テ証ニクシク云臣非之ヲテ云臣非
丸散

〇畫明夜睡云道自於ノ理何ノ 畫思云

〇別テ云云ニ心勞スルヲ明陰辰夜極寧煌然
フニシテ睡陰辰ノ昏侯ヲ邪スル事ニシテ不知然

天函ハ書明夜睡云此自於ノ理也云云云云

アハニシテトヤ

〇此也其心云非云此云此云此云此云此云此云

ホトニ感シ陰辰ノ事ニシテリテ寤病ト云ニクフ

〇學者ノ事 學者此ノ事ヲ知ルル日ト自悔云云

レ名ニ理ハ至極セヌフ

〇或曰飲食固カ能胃ニ水穀ニ者ノ 水穀

一ツニ胃ノ府ニテ消化スルニ如何様ニテ水

穀合ルツト也

〇如膽肥止有下口云云ノ 膽肥ハ下口

有ホトニ水ノ如ルルノ句語也云云ト云テ水ノ

丸丁ノ所當也亦人ノ腸胃ノ内ニカサキモ云ル

何トニテ水後清キツト聞也馬氏ノ膽肥ニ

有上口法張出ハ下口有テ上口ナシ居ハ
下口有ヤウニ下ニテ云ク交膈病ツルハ
上口下口に有ルハ似タリ物ハ水穀トモ膈之入
ルハ亦ヤウ有ルトモ口ヨリ入ニテハヤシ

口經云飲食入胃ノ經脈別轉ハ食ノ字ナ
シ月書馬氏ノ註アリ東垣丹溪天眞の飲
食トシク水穀一ツリニテモ初マツ

口游溢精氣ト輸於脾ノ游溢ハワチアツル也
飲食胃ノ府ナテ下ノ氣氣ニカシテ消化

スルハ食ヲ内ニテ游ラ者ト口カスヤウナル也中焦
如泛沫也扱精微ノイケツ脾カアツクテ
脾、始ルル也イケテ脾ニ始リテ雲々霧々如ルル
ニ上焦ハ如雷絡也

口通調水道下輸膀胱ノ脾ヨリ膈之、水
ヲイタシヤルテ食トモ水ノ道程也脾ヨリ膈之、
滯ヤ川ヤウニ水道有ルハ脾ス脾ハ水ヲシ
有テ脾ヨリ始ル所ノイケツクモヨリ地ニ毎ツ降
ス如クハ為ラ府ハクバリヤルソ脾ヨリクハ凡清ノ

清花ノテハ肌膚骨肉ノ間ニ在リテ也清ノ濁
ナルテ膽芝ニ冬ニテハ水ノ下ニ此ヲ下輸膽
胞居

○水精回存ノ經並行ノ時ヨリ回存ノ水精ヲ
令存シテハ筋ノ經絡並行シテ清環止ルテ
キル此ニテハ力立ツク也是ニテ地ニテハ時
清環シテハ水ノ下ニ此ヲ下ニテ云
○食於回時ハ清環ノ極度ニ至ルテハ
シ王出ニモ出ニモハ筋トシテハ此ハ水ノ下ニテ

此キノ表ハハハ水精回存ノ經並行ノ天ノ向
時宜ク清環ノ極度ニ至ルテハ
理當ノ度量ニ至ルテハ王出ニ
註ノルニテ素問ノ本ニテハ此ヲ馬出ノ筋ノ
此ハ水精ノ筋ノ下ニ此ヲ下ニテ
ハ筋ノ下ニ此ヲ下ニテハ筋ノ下ニ
ハ筋ノ下ニ此ヲ下ニテハ筋ノ下ニ
ハ筋ノ下ニ此ヲ下ニテハ筋ノ下ニ
ハ筋ノ下ニ此ヲ下ニテハ筋ノ下ニ
ハ筋ノ下ニ此ヲ下ニテハ筋ノ下ニ
ハ筋ノ下ニ此ヲ下ニテハ筋ノ下ニ
ハ筋ノ下ニ此ヲ下ニテハ筋ノ下ニ

受細い好。衰るる。テ衰葉ノ官法

。全ク精解出轉輸を運化し。轉ハコゴコトククス

ヤイタヌトハヤル。一ツ運化トハコトス。一也言ハ胃

ニ水穀ヲ受テテ解カアツテテ清糜スルヲ其

氣ヲ解凡又運化シテと解ヤル。此三ツ水

穀ヲ分后一ツ云ハ。為ノ序也

。口蓋水穀入胃其清者為担清下出。是門

是。大ハ小腸。一也ヨリ水穀胃ノ府内。テ清化

シテ清濁上下。分ル。一ツ云担清二字ハ。カヌ也

蓋ハ胃中。テ清化シテ其清者。カヌトナリ。胸

ノ。二寸胃ノ下。口蓋門。至テ大ハ小腸。是シテ

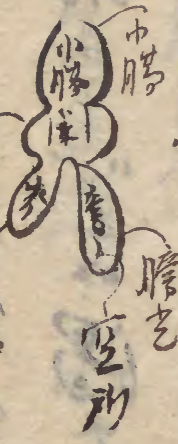
為。為。穀道。出ル也。胃ノ下。ヨリ水穀化

一ツ。小腸。入寸。胸ノ。一寸。水方。亢。胃

門。后。所。テ。水。穀。分。シ。テ。水。ハ。膽。也。穀。ハ。大。腸

。大。凡。也。胃。門。后。所。ハ。小。腸。ノ。下。口。ト。大。腸。ノ。上。口

ト。膽。也。ノ。上。口。ト。ニ。ツ。ノ。口。合。シ。テ。是。凡。所。也



右。脾。如。此。合。シ。テ。マ。ル。フ

口其清者候然而此為氣依膠乳而之候此膠乳
此より上の湯花地ノ下階凡一ツ云テ此ヨリ以下
ハ流レ物トシ、然レ一ツ云テ候然ハスミヤカナル旨也
此為氣トハ胃中ニテ水穀消化シ其清氣
ノ下テ膠ノアツクニ依テ上、膠、上レ也其膠ニ
結リ至テカラ其氣又清濁合ツテ下
ムテテ云也

口其至清者至清者由膠而灌溉手回體
為汗液津液ノ為運用ノ此ハ膠ヨリ右レ

清濁ツ云ノ向解ハ意ニテハ物カヤ汗液津液
口口トモ、湯カノウレツテ下此則血脈ツ砂テ下
夫ノ末ニテモ至レ候生、運用ツテ云云

口其清中ノ濁者下入膠也而為筋ノ出年
カ候リ、言ハ清ノ清ハ肌膚骨合肉筋
トナリ又清ノ濁ハ膠也、カカカ候、カレノ相
膠乳ハ布袋ノウツル也膠乳ノ上ハ胞ト
云テ是カ水コシ存ンヤウツル地存テ液水ツ
コシテ膠也、カレ也穀ハ胞ノ上止テ大腸

心也膽志ノ布袋ノ下ニ空ナ柄ノ様ニ
有牙胞ヲコシトラルカ保收ノ柄ノヤウナル地
志ニ也扱其柄ノ下ニ口有テ少保ラセト
思下遊口同クノ下思ハ口閉ル也此白地
丸ノ底ノ同左ノ同右ノ白地ナル同
一也如此ナル好ニクテ膽志ノ内ノ不入内
得氣如在コトクニテ膽志ノ外ノ水ト成
天清ムノ同者ノ何トシテナク何トシテ清
キフ信々所ヲ思ハタツ

口東經有云飲者必飮一辨動氣酒
氣味俱湯乃其形ノ地也居ノ正地ニ
為水一ツ云々居一ツ正謂此也地
口蓋肺屬金而西液手脾胃ノ上而如天
之西液地一括致ニ云凡屬金居如
少陽ノ上ニ居テ諸病府ノ西液手居ル地
ノ上ツ天ノ西液テ居ル地ニ放ニ天ヨリ雨ナト
クハル如ク肺ヨリ諸病府肌膚骨肉ニ
毛氣ツクハルツ也

口經云清陽为天濁陰为地
下陽陽在象十
ノ誤也言ハ陽凡物ヲ云トナリ
陽凡物ヲ云トナリ
凡天ノ陽凡物ヲ云トナリ
陽凡物ヲ云トナリ
凡天ノ陽凡物ヲ云トナリ
陽凡物ヲ云トナリ
凡天ノ陽凡物ヲ云トナリ
陽凡物ヲ云トナリ

口水ノ氣胃輒地氣而
上氣亦從天降
言ハ水男ニ入テ氣ノイケ上
膠結凡此地凡ノ
物ヲ雨云トナリ
所其クケ膠ヨリ下
クナリヤ
ハ云凡ノ物ヲ雨云トナリ
降凡所物ハ地凡

物ヲ雨云トナリ
又降テ每トナリ
如ク人
力ノ凡モ下ヨリ膠
結リ膠ヨリ下
降レ
下云地ノ雨云雨ノ如
レ也

口或云老人氣壯年
飲水ノ世間其候チ
エユタリ
口或云降多高而水
復多物多クノ世間
ハ老人降
凡氣多チ故水復多
シ故年物凡多チハ
何物
トナリテ上云敷
出ルワリ也

口經云清陽出上
云敷濁陰出下
云敷ノ
陽ハ上ヲ乾ルニ依
テ上云敷ハ膠理
ニ依リ

四肢ノ實シ厚ク厚ク年ノ始凡多キ好如
 此有テ其力、潤強ク耳聞之好す好之んソ
 陽ノ下ヲ乾ク、依テ下ニ寄ルカ、好、走リ云
 府ニ解スル此を人ト云フ多クモテ耳聞石體明也
 口各從其地トハ陽ノ始凡代ニ從テ始リ陰陽
 凡代ニ從テ降ルフトトシテ氣ヲ結句シタツ
 口大塊ニ為器、一ト云フ此百物ヲ從容トフクモ
 奈テドコニ由ルハ不知人、凡代モ耳聞同前
 凡代トシ、氣ヲ結シタス、一ト云フ此百物ヲ從容トフクモ
 口賢者、一賢格、少、好、之、更、有、也

